第 65 回東北造形教育研究大会岩手大会

2021 年度岩手県造形教育研究大会盛岡大会

つなぐ思い 広がる感性

～喜びを感じる造形活動をめざして～

「忘れられた命」 北上市立和賀東中学校　３ 年　小松平花姫

◆ 期日　　令和３年１０月２８日（木）

◆ 小学校会場　盛岡市立高松小学校　岩手大学教育学部附属小学校　盛岡市立見前小学校

◆ 中学校　　オンライン研究会

◆ 記念講演　　講師：阿部宏行 先生（札幌大学女子短期大学部こども学科 教授）

（ｵﾝﾗｲﾝ配信）　演題：「つくりだす喜び」を礎にして　～子どもが好きになる評価・図工美術が好きになる指導～

目　　次

◆ 挨　　拶 …… 2

◆ 祝　　辞 …… 4

◆ 大 会 日 程 …… 6

◆ 研 究 概 要 …… 8

◆ 記 念 講 演 …… 10

◆ 小学校部会 …… 13

公開授業① 2年 造形あそび　盛岡市立上田小学校　教諭　岩部みな …… 14

② 5・6年 鑑賞　盛岡市立巻堀小学校　教諭　岡山里沙・室井　博 …… 16

③ 2年 絵　岩手大学教育学部附属小学校　教諭　上田佳穂 …… 18

④ 4年 工作　盛岡市立見前小学校　教諭　平野有華 …… 20

実践発表❶ 2年 工作　盛岡市立上田小学校　教諭　岩部みな …… 22

❷ 2年 造形あそび　宮古市立千徳小学校　教諭　今野瑶子 …… 24

❸ 1年 鑑賞　奥州市立水沢南小学校　教諭　佐藤史織 …… 26

紙上発表 4年 鑑賞　青森県青森市立荒川小学校　教諭　松浦　純 …… 28

◆ 中学校部会 …… 31

実践発表① 3年 彫刻　滝沢市立滝沢第二中学校　教諭　佃　里子 …… 32

② 全学年 鑑賞　盛岡市立上田中学校　教諭　小山祐太 …… 34

③ 2年 彫刻　盛岡市立城西中学校　教諭　佐藤　陽 …… 36

④ 3年 鑑賞　盛岡市立見前南中学校　教諭　北條優美子 …… 38

⑤ 3年 表現・鑑賞　大槌町立大槌学園　教諭　奥村理奈 …… 40

⑥ 2年 デザイン　岩手大学教育学部附属中学校　教諭　佐々木倫生 …… 42

紙上発表❶ 2年 彫刻・工芸　青森県青森市立筒井中学校　教諭　一戸万聖 …… 44

❷ 3年 鑑賞　宮城県大崎市立古川中学校　教諭　菅原由美子 …… 46

◆ 資　　料 …… 47

大会年表 …… 48

連盟規約・表彰規定 …… 51

表　　彰 …… 52

大会組織 …… 54

◆ 協　　賛 …… 55

第 65 回東北造形教育研究大会岩手大会

2021 年度岩手県造形教育研究大会盛岡大会

大　会　主　題

つなぐ思い　広がる感性

～ 喜びを感じる造形活動をめざして ～

◆ 主催　　東北造形教育連盟
岩手県小学校教育研究会図画工作部会　岩手県中学校教育研究会美術部会

◆ 後援　　岩手県教育委員会　宮城・福島・山形・秋田・青森各県教育委員会　盛岡市教育委員会
岩手県小学校長会　岩手県中学校長会　盛岡市小学校長会　盛岡市中学校長会
岩手県社会福祉協議会保育協議会　日本教育会岩手支部
公益財団法人日本教育公務員弘済会岩手支部
岩手県公立幼稚園協議会　一般社団法人岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会

◆ 記念講演　　講師：阿部宏行 先生（札幌大学女子短期大学部こども学科 教授）
演題：「つくりだす喜び」を礎にして　～子どもが好きになる評価・図工美術が好きになる指導～

つなぐ思い　広がる感性
～喜びを感じる造形活動をめざして～

第65回東北造形教育研究大会岩手大会　会長　佐藤智一

はじめに，新型コロナウイルスの感染拡大というこれまで経験したことがない状況におかれ，本来であれば昨年の夏に開催するはずだったこの大会の1年延期を認めていただいた，東北各県の関係者の皆様方に，改めて感謝申し上げます。

一昨年前の冬に発生した新型ウイルスによる感染爆発の影響は，今も続いています。2020年3月に東北各県の同意を得て，大会を1年延期させていただきました。しかしその後も，ウイルスの変異株が出現し，感染拡大の波は何度も押し寄せています。そこで本大会は，以下の基本方針に沿って計画することにしました。

- 感染防止を最優先にすること。
- 各校の教育活動を止めぬよう最大限の配慮を行うこと。
- 授業者と実践発表者の研究発表の機会を確保すること。

特にも開催地である盛岡市で感染が収まらない状況が続いていることから，幼稚園は中止，小学校は授業研究会の人数制限・分散開催・参加者の県内限定，中学校はオンライン開催としました。本来であれば，1年に1度，岩手にとっては6年に1度，東北各県の先生方とお会いして学び合う貴重な機会に，このような制限をせざるを得なくなったことは，誠に残念でなりません。

その中で中学校研究会のオンライン開催と記念講演のオンライン配信は，この感染症の流行を克服するための新しい試みとなります。ギガスクール構想によって学校のICT環境が急速に整備され，私たちもその活用に挑戦することとしました。コロナ禍，さらにはポストコロナ期の学びの手段としてオンラインで各地を結び，少しでも実りある研究会にできるよう努めたいと思います。

この大会に向けて私たちは，「つなぐ思い　広がる感性　～喜びを感じる造形活動をめざして～」というテーマを掲げました。いよいよ本格実施となった学習指導要領では，主体的・対話的で深い学びに向けた学習過程の工夫が求められています。私たちは，どうすれば子供たちが自分の思いなどを生かした主体的な学習活動に取り組み，創造活動を支える資質や能力を育むことができるか，各校で研究実践を重ねてきました。「子供たちの世界が広がるきっかけとなる素材や資料との出会い」，「子供の想像力を引き出す問い」，「造形的な見方・考え方を働かせる学習過程」等を工夫し，子供たちが主体的に学ぶ授業をめざしました。そこで様々な人やものごとへの思いをつなぎ，身体を通して森羅万象に対する知性と感性を広げ，つくる喜びをたっぷりと経験することは，これからの生活や社会を創造していく活力として，子どもの心の中に根付くに違いありません。

新型コロナウイルスは，世界各地で人々の生命や生活，価値観や行動，さらには経済や文化など社会全体に広範かつ多面的な影響を与えています。その中でこれからの教育には，「子供たちの幸福度・自己肯定感や当事者意識を高めること」，「一人ひとりの自律と社会における多様性を高めること」，「想定外の事象と向き合い対応する力や不透明な未来を切り拓く力を涵養していくこと」等が求められています。私たちがめざす「喜びを感じる造形活動」が，未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に，そして豊かに育成することに資するものにしていくため，ご参会の皆様からご忌憚のないご意見・ご感想を寄せていただければと思います。

終わりに，本研究大会の開催にあたり，様々なご支援，ご理解，ご協力を賜りました全ての皆様方に深く感謝申し上げ，ご挨拶とさせていただきます。

コロナ禍の大会継承が，美しさに心躍る豊かな感性を育むと信じて

第65回東北造形教育研究大会岩手大会　実行委員長　佐藤あい子

『つなぐ思い広がる感性～喜びを感じる造形活動をめざして～』をテーマに，第 65 回東北造形教育研究大会を，ようやく開催できる運びとなりました。コロナ禍により当初の計画を大幅に見直しせざるを得ないなか，実行委員会を開催するたびに本大会の意義を再確認しながら模索して参りました。

このような状況下にあっても，東北各県の造形・図工美術教育を熱心に導いていただいております関係者の皆様のご理解・ご協力の下，極めて限定的ではありますが，東北造形教育研究大会を開催できますことに，敬意と感謝を申し上げます。

さて，私ども岩手県造形教育連盟では，これまでに幼稚園・小学校・中学校毎に事前授業研究会を重ね，研究を深めて参りました。特にも，現行の教育要領及び学習指導要領が幼稚園・小学校・中学校共に完全実施となったことを受け，各校種ごとに造形活動における“主体的で深い学びをイメージしながら，対象とかかわり・思いをつなげ・友達とつながり，自己の感性を広げ，喜びを感じる表現活動及び鑑賞活動の有り様を探って参りました。

本大会では，『つくりだす喜びを礎にして～子どもが好きになる評価・図工美術が好きになる指導～』と題しまして札幌大学女子短期大学部こども学科 教授の阿部宏行先生にご講演をいただきます。コロナウイルス感染症が蔓延しましても，オンライン配信により，県内はもとより東北各県の造形・図工美術と関わる先生方とつながり，共に学び合うことができることに喜びを感じております。

また，公開授業では，MOA 美術館のご協力により，国立博物館所蔵　重要文化財　尾形光琳筆　『風神雷神図屏風（デジタル光筆画技術により　八戸市　帆風美術館　複製）』を，盛岡市立巻堀小学校の児童が鑑賞する機会をいただきました。裏面には，実物同様　酒井抱一筆　『夏秋草図屏風（帆風美術館　複製）』が配されております。紙面を借りて御礼申し上げます。

結びに本大会開催のためにご指導とご支援を賜りました各県教育委員会，東北の各県造形教育連盟，並びに各教育関係諸団体，会場校，関係各位に衷心より感謝と御礼を申し上げ，挨拶といたします。

祝　　辞

岩手県教育委員会　教育長　佐 藤　　博

第 65 回東北造形教育研究大会岩手大会並びに第 55 回岩手県造形教育研究大会盛岡大会が，新型コロナ感染症拡大防止への最大限の配慮と，実践研究に励む先生方の発表の機会の確保という方針のもとで，2年ぶりに開催されますことは，誠に喜ばしく，開催県を代表いたしまして心より歓迎申し上げます。

令和２年度に小学校で，本年度は中学校で，新学習指導要領が全面実施されました。本県においては，教育振興計画における取組の視点の一つである，「岩手だからこそできる教育，やるべき教育の推進」を目指した実践が展開されています。教育課程全体を通した「知識及び技能」の習得，「思考力，判断力，表現力等」の育成，「学びに向かう力，人間性等」の涵養を目指し，ICT の活用を含めた「主体的・対話的で深い学び」の実現に挑む，積極的な授業改善の事例が増えています。

教育の転換期と言ってもよいこの時期に，「つなぐ思い広がる感性～喜びを感じる造形教育をめざして～」を大会テーマとして，図画工作・美術教育の充実を目指した研究協議が行われることは，大変意義深く，新たな時代の造形教育の可能性を拓く一助となることを確信しております。

児童生徒が社会の激しい変化を前向きに受け止め，未来に向かって，新しい発想で構想したことを実現していくことのできる，瑞々しい感性や創造力等を育む上で，造形教育の果たす役割は，今後より一層その重みを増していくものと思われます。児童生徒が感じたことや考えたことを豊かに表現し合い，自分にとって意味や価値のあることを実感する喜びを目指した授業が，多くの笑顔とともに展開されますことを期待してやみません。

結びに，本研究大会の開催にあたり御尽力いただきました関係各位の皆様に，深く敬意を表するとともに，本研究大会の御成功と今後益々の御発展を祈念申し上げ，祝辞といたします。

祝　　辞

盛岡市教育委員会　教育長　千 葉 仁 一

第 65 回東北造形教育研究大会岩手大会並びに第 55 回岩手県造形教育研究大会盛岡大会が本年度開催されますこと，心からお祝い申し上げます。また，新型コロナウイルス感染症拡大に伴い，その対策を講じながら，造形教育の発展に向けて取り組んでいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

貴研究大会が，これまで造形教育の充実・振興に努めてこられましたことは，広く教育界の認めるところであり，その発展のために情熱を傾けてこられた関係各位の御努力に敬意を表するものであります。

さて，全面実施となった新しい学習指導要領におきまして，小学校図画工作及び中学校美術科につきましては，「表現及び鑑賞の活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の形や色，美術，美術文化などと豊かに関わる資質・能力」を育成する教科であると示されております。

生活や社会の中において造形や美術と豊かに関わっていくことは，将来，子どもたちが職業としてだけではなく，趣味や家庭・地域の中で，形や色・イメージなどの視点をもちながら造形や美術を身近に意識し，身のまわりの物から，そのよさや美しさなどを感じ取ることによって，普段の何気ない毎日の中に喜びや安らぎを感じ，人生を心豊かなものにしていくことにつながっていきます。

本大会において,「つなぐ思い　広がる感性～喜びを感じる造形活動をめざして～」を大会テーマとして，実践と研究を発表されますことは，大変意義深いことであり，その成果に大いに期待を寄せるところであります。

本研究大会に参加されます幼稚園・保育園・小学校・中学校の先生方におかれましては，「子どもたちの思いをつなぎ，広がる感性を育成する指導法」や，「新しい時代の造形教育の在り方とその可能性」について，研鑽を積まれますことを御期待申し上げます。

結びに，本大会の開催に当たり，御尽力いただきました関係各位に心から感謝申し上げますとともに，実り多い大会になることを祈念し，お祝いの言葉といたします。

大 会 日 程

◆ 東北造形教育連盟理事会（オンライン）　　令和３年１０月２７日（水）１６：００～１６：４５

◆ 小学校研究会

8:15　8:45　9:25　9:35　10:20　10:30　10:40　11:25　11:35　12:15　12:25

受付（高松小） Aコース：50人限定	実践発表① （上田小：工作）	休憩	公開授業１ （巻堀小：鑑賞）	休憩	研究概要発表	授業研究会１	休憩	実践発表② （千徳小：造形あそび）	表彰・閉会
受付（高松小） Bコース：15人限定			公開授業２ （高松小：造形遊び）			授業研究会２			

8:15　8:45　9:30　9:40　9:50　10:35　10:45　11:25　11:35　12:15　12:25

受付（附属小） Cコース：50人限定	公開授業３ （岩大附属小：絵）	休憩	研究概要発表	授業研究会３	高松小学校へ移動～受付	実践発表③ （水沢南小：鑑賞）	表彰・閉会
受付（見前小） Dコース：15人限定	公開授業４ （見前小：工作）			授業研究会４			

◆ **小学校公開授業・実践発表**

小学校Ａコース〔運営・司会者〕盛岡市立中野小学校　教諭　後藤隆子〔会場〕盛岡市立高松小学校
小学校Ｂコース〔運営・司会者〕滝沢市立鵜飼小学校　教諭　赤澤恵美〔会場〕盛岡市立高松小学校
小学校Ｃコース〔運営・司会者〕盛岡市立上田小学校　教諭　山野目道子〔会場〕岩大附属小学校→高松小へ移動
小学校Ｄコース〔運営・司会者〕盛岡市立北厨川小学校　教諭　秋山清美〔会場〕盛岡市立見前小学校→高松小へ移動

内　容	領域	学年	題　材　名	授業者・発表者	指導助言者
実践発表①	工作	２年	手ぶくろでへんしん　ぼくとわたしのともだち	盛岡市立上田小学校 教諭　岩部みな	一戸町立一戸南小学校 校長　吉田武雄
公開授業２	鑑賞	5・6年	風神雷神図を味わう	盛岡市立巻堀小学校 教諭　岡山里沙 教諭　室井　博	
実践発表②	造形遊び	２年	つないでつるして	宮古市立千徳小学校 教諭　今野瑶子	
公開授業１	造形遊び	２年	スタンプ，スタンプ！	盛岡市立高松小学校 教諭　長山　茜	岩手県教育委員会 主任指導主事　大野　誠
公開授業３	絵	２年	線から生まれるものがたり	岩手大学教育学部附属小学校 教諭　上田佳穂	奥州市立常盤小学校 校長　加藤　均
実践発表③	鑑賞	１年	すきないろ・すきなかたち	奥州市立水沢南小学校 教諭　佐藤史織	
公開授業４	工作	４年	願いの種から	盛岡市立見前小学校 教諭　平野有華	陸前高田市立広田小学校 副校長　新沼　健
紙上実践発表	鑑賞	４年	からだでかんしょう ～まねっこ美術館（ミュージアム）を開こう～	青森県青森市立荒川小学校 教諭　松浦　純	

◆ 記念講演（高松小学校での上映 ＆ オンライン配信）

12:25　13:25　14:25　14:35

連絡・昼食・休憩	記念講演 （録画放映）	閉会

演　題	講　師
「つくりだす喜び」を礎にして ～子どもが好きになる評価・図工美術か好きになる指導～	札幌大学女子短期大学部こども学科 教授　阿部宏行　先生

◆ 中学校研究会

8:15　8:35　8:45　9:00 9:05　9:55　10:05　10:55 11:05　11:55 12:05

受付(オンライン) E コース	開会	研究概要発表	休憩	実践発表1（滝沢二中：彫刻）	休憩	実践発表2（上田中：鑑賞）	休憩	実践発表5（大槌学園：表現・鑑賞）	閉会
受付(オンライン) F コース				実践発表3（城西中：彫刻）		実践発表4（見前南中：鑑賞）		実践発表6（岩大附属中：デザイン）	

◆ **中学校実践発表（Microsoft Teams によるオンライン配信）**

中学校Ｅコース　（実践発表１・２・５）　〔司 会 者〕　宮古市立崎山中学校　副校長　髙 橋 知 志
〔運営補助〕　盛岡市立飯岡中学校　教　諭　杉 本　聡

中学校Ｆコース　（実践発表３・４・６）　〔司 会 者〕　盛岡市立下橋中学校　指導教諭　佐々木俊江
〔運営補助〕　岩手県立一関第一高等学校・附属中学校　教　諭　工 藤 倫 弘

内　容	領　域	学年	題　材　名	授業者・発表者	指 導 助 言 者
実践発表１	表現（彫刻）	３年	心のふるさと ～彫刻に思いを込めて～	滝沢市立滝沢第二中学校 教 諭　佃　里 子	県 南 教 育 事 務 所 指導主事　雪ノ浦達雄
実践発表２	鑑賞	全学年	多様なつながりを意識して行う 鑑賞環境づくり	盛岡市立上田中学校 教 諭　小 山 祐 太	
実践発表５	表現・鑑賞	３年	ミニチュアの世界で表現する 「思い出のワンシーン」	大槌町立大槌学園 教 諭　奥 村 理 奈	
実践発表３	表現（彫刻）	２年	抽象彫刻に挑戦 ～パブリックアートの制作～	盛岡市立城西中学校 教 諭　佐 藤　陽	盛岡市立米内中学校 副校長　山 本 勝 彦
実践発表４	鑑賞	３年	感じるままに素直に ～小林覚さんの世界にせまる～	盛岡市立見前南中学校 教 諭　北 條 優 美 子	
実践発表６	表現（デザイン）	２年	命を守るハザードマップの制作	岩手大学教育学部附属中学校 教 諭　佐 々 木 倫 生	
紙上実践発表１	彫刻・工芸	２年	ねぶたライトをつくろう	青森県青森市立筒井中学校 教 諭　一 戸 万 聖	
紙上実践発表２	鑑賞	３年	ディベートによる鑑賞	宮城県大崎市立古川中学校 教 諭　菅 原 由 美 子	

大会主題

つなぐ思い　広がる感性

～喜びを感じる造形活動をめざして～

発表者　岩手県岩手町立沼宮内中学校　指導教諭　田村敏之

1　大会主題について

加速度的に変化を増す社会にあって，その時々に求められる資質・能力を身に付け，生涯にわたって能動的・創造的に学び続けることができる子どもたちを育てることを目指し，何事にも主体的に向き合い，感性を豊かに働かせながら自らのよさや可能性を発揮し，よりよい社会や幸福な人生の造り手となる力を，造形活動を通して身に付けられるよう研究を進めることとしました。

また，平成30年度から施行されている幼稚園教育要領をはじめ，令和2年度から小学校，令和3年度から中学校の学習指導要領完全実施に基づき，「主体的な学び」，「対話的な学び」，「深い学び」の視点で指導改善に取り組み，幼稚園から中学校までの造形教育において育成すべき資質・能力を確実に育むための研究を進めてきました。

✽　つなぐ思い

造形活動は，子どもの創造性を引き出す題材との出会いを起点として，夢や願い，イメージなどを具現化していく活動です。一人一人が設定した主題を形として具現化していく過程で，他者と関わることによって，思いやイメージなどがさらに深まり，創造力が高まります。他者とのつながりを大切にすることによって，自己の「思い」や「発想」，「イメージ」，「伝えようとする事柄」などが明確になり，それらをどのように表現するかについて，考えを深めさせたり，創意工夫させたりすることができます。多様な関わり合いを工夫し，子どもと子どもをつなぐことで造形活動に喜びを感じさせることができると考えます。

また，生活や社会と題材とのつながりを大切にすることで，身近な生活や社会における造形の働きや美術文化についての理解を深め，造形的な見方・考え方が生活の中でも自在に働く力を育てることにつながると考えました。

✽　広がる感性

感性は，様々な感覚を働かせながら，対象や事象，そしてそれらがもつ形や色などを捉えたり，創造活動を行う際の思考・判断をしたりするときの基になるものです。学習の場，材料や用具，さらには人，時間，情報などといった子どもたちを取り巻く環境のすべてが感性を育むことに関係しており，感じるという受動的な面のみならず，感じ取って自己を形成していくことや新しい意味や価値を創造していくという能動的な面もあります。

指導にあたっては，子どもが造形的な見方・考え方を存分に発揮しながら表現及び鑑賞の活動に取り組むことができるようにすることで感性をより広げることをねらいとしています。

喜びを感じる造形活動

「喜びを感じる造形活動」とは，「喜びを感じることができる造形活動を創造すること」です。子どもが「わくわく感」や「知的好奇心」，「使命感」，「達成感」，「満足感」などを感じながら表現及び鑑賞の活動に夢中になったり意欲的になったりする場面を授業の中に創り出すということです。造形活動に喜びを感じるからこそ，図工・美術科における資質・能力が効果的に育成されると言えます。子どもと子どもの思いをつなぎ，感性を広げさせるために，喜びを感じることができる造形活動を題材や授業の中に位置付けることを目指します。

2　研究の重点

子どもが造形的な見方・考え方を働かせて，他者や生活・社会などと豊かにつながることのできる造形活動のあり方を探る。

3　大会主題にせまる授業づくりの視点

	授業づくりの視点	目指す児童・生徒の思い
準備	「育成すべき資質・能力」を明確にする 造形的な視点をおさえる 生活や社会とのつながりをおさえる　つなぐ	
導入	意欲を喚起する	＊やってみたい ＊わくわくするなあ ＊楽しそう ＊触ってみたい ＊知りたいなあ ＊伝えてみたい
展開	個で思考し試行する場の設定をする	＊まず，これでやってみよう ＊こんな風にやったらどうかな ＊主題は，これにしよう ＊自分ならこう考えるかな
	協働で思考し試行する場の設定をする　つなぐ	＊見てみたいな ＊それいいね　ひろがる ＊だったら，こうしてみよう ＊もっとやってみたい ＊なるほど，そういう考えもあるんだな　つなぐ
まとめ	＊その子なりの造形活動への意味付け・価値付けができるようにする ＊ねらいに沿って振り返りの視点を示す	＊上手くいったことは何かな ＊友達と関わってよかったな　つなぐ ＊こんなことができるようになったな ＊新しい発見があったな　ひろがる ＊次にこんなことをしてみたいな　ひろがる ＊身近なものとつながっているんだな　つなぐ

わくわく感

つなぐ思い

知的好奇心

広がる感性

達成感
満足感
新たな好奇心
郷土愛
文化理解

～喜びを感じる造形活動をめざして～

演題　「つくりだす喜び」を礎にして
～子どもが好きになる評価・図工美術が好きになる指導～

講師　札幌大学女子短期大学部こども学科　教授　阿部宏行　先生

✽　子どもを知るということ

評価は，自己評価にはじまり，自己評価におわるといえます。その自己評価の間にある過程に様々な評価があり，新たな目標を生み出すことに寄与しています。ですから教育評価は自己評価を助ける評価でもあります。

親は，赤ちゃんのうんちの具合を見て，赤ちゃんの体の具合など体調を評価します。その上で，どのように行動するかを決めます。これもはじめに評価があり，その評価をもとに，判断し行動します。ここには子どもの成長を支える支援がありますから「教育」といえます。新たな行動のもとになっているのは，赤ちゃんの体調の具合がうんちに表れることや，その評価の規準が親にあることです。

教育評価は，特に「人と人」の営みのあるところで，観察があり，状態を把握する規準があって，その規準のもとに行動が促されるといえます。

本講演では，特に学校における「学習」での評価を扱います。万能な評価はありません。人が人を評価するところに，よさもあれば限界もあります。しかし，その目的は，評価される人が，自らのことや，将来に対する指針や方向を示す判断情報となることに意味があります。

図画工作・美術では，学習という「学び」の過程における，作品の評価に偏らない活動中の行為などを見取る形成的な評価を重視しています。これは，子どものフィールドに立って，先生が子どもの声やつぶやきに耳をすませ，活動する姿に共感のまなざしを向けることに他ならないのです。子どもを知ることが教育の原点です。

✽　子どものよさや可能性を見取る

私たち大人にある「評価」には，選抜する・差をつけるなどの意識が残っていて，子どものよさや可能性を認め伸ばすといった「教育評価」とは異なるところもあります。入試などの選抜は，到達すべきラインがあって，それを超えると選ばれて，超えないと選ばれないことです。

「評価のABC」日本文教出版

また，総括的な評価が先にあって，平均値などを設定して，それ以上であれば加点，以下だと減点などもそうです。相対的な評価の考えも未だにあって，比率による分布に意識がとらわれているところも未だにあります。特に減点的な評価の場合などは，よさや可能性などから離れて，その子どもにケチをつけて差をつけるのです。

学習評価は，学習集団を基に行われますが，それぞれ一人一人にスポットライトを当てて，評価することが

大切です。この評価は，子どものよさや可能性を見取る先生のまなざしのことです。

評価の見取りは，総括的な評定を前提にした「数字」に置き換える作業ではありません。子どもが自分の思いの実現に向けた取り組みに対して，「学習指導」を行うことを前提にした形成的な評価なのです。

また，多くの子どもが当初期待していたような学習が成立していないようであれば，それは「指導の工夫」なのか，「評価規準は適切なのか」など，授業改善につなげる評価のことなのです。

このように学習評価は，子どもの一人一人に当てられますが，先生自身の「学習指導」に対する評価にもなっているのです。

校内研修などで授業のあり方が検討されることがありますが，その際にも「子どもの姿」を通して，「授業」について評価し検討することが大切です。

このたびの改訂での目標と評価はコインの裏表です。そして目標は，資質・能力（＝学力）の育成をめざすので，これもイコールです。子どもが身に付ける内容は学習指導要領に示されています。方法は主体的・対話的で深い学びに向かう授業です。自分の授業の改善に向けて一歩踏み出すとしたら，どこからでも，つながって往還しているといえます。

✽　子どもが見える授業が見える

「子どもが見える」とは，「子どもを理解する」ことです。これは「評価」につながります。子どもが資質・能力を働かせて，その育成を図ってるところを見取ることです。「授業が見える」とは，「授業を構造的に捉え指導を工夫する」ことです。子どもの資質・能力を育成するに当たって，指導の工夫などを意図的に考え，実践することです。

それでは，子どもの作品を評価するときに必要なのは，芸術家のような審美眼でしょうか。いいえ，子どもの作品を「芸術品」として捉えてはいけません。

子どもの作品は，成長することに伴って，必然的にあらわれる発達の証（軌跡）なのです。ですから，周囲の大人や先生は子どもの表現を肯定的に捉えて受け入れることが大切です。この受け入れは，次に「期待」というまなざしになります。これが指導の基本です。健やかで，心豊かな人格形成に寄与するまなざしです。指導と評価は一体です。では，どのように一体なのでしょう。これは先生の子どもへのかかわりを示しています。

評価は子どもの所作や作品などの諸々のことを対象として捉え，理解することといえます。そのことを認めた上で，ほめたり，励ましたり，時には叱ったりするような「指導」という形で働きかけることになります。この働きによって，子どもは目標を見定めたり，改善したりします。その上で子どもは実現に向けて「つくり・つくりかえ・つくる」という図画工作・美術ならではの「実行」に至るのです。これらの目標が毎時間の具体的な目標もあれば，少し遠くにおいた「よりよい自分」をイメージした目標もあります。このときに「省察」という振り返りなどによって確かな目標をもつことができます。

✽　好きこそものの上手なれ

子どもの「得意」は「評定」にあらわれるといえます。「好きこそものの上手なれ」の通り，好きなことには夢中になって取り組むと同時に，技能も熟達するといえるでしょう。まずは，活動の入り口で，「キライ」と留まって

いる子どもを「キライから苦手へ」そして「苦手から少し好きに」と移行できるように，授業や指導を工夫することです。「キライ」の要因を「見たようにかけないから」，「絵が下手だから」など，技能のみに特化することなく，図画工作・美術の活動には幅のあることや，自分の表したいことの方法を広げてみることもできます。答えは一つではないのです。そもそも図画工作・美術は，「絵がかける」ことを教科の目的としていません。しかし，人々の受け取りが，「かけるか・かけないか」になっていることに問題があります。多くの大人が，「絵をかくことがキライ・苦手」で，「だから図画工作・美術がキライ」と結び付けて考えるところが問題の所在なのです。

図画工作・美術は造形活動を通して，自分なりの意味や価値をつくりだすことで生活や社会とつながっていることを感得する場といえます。

「何とか解決したい」「もっと上達したい」など意欲や意志の働きによって，人は動き出すことができます。子どもに寄り添い，その機会を与えることや，励ましなどが，「好きになる指導」がスタートになるといえるでしょう。誰もが，ほめられることに，不快な感情をもつ人はいません。本来，自ら表現したことを他者の言動によって，不快な感情をもったり，他者との比較などで，劣等感を抱いたりすることから「キライ」が生まれます。自分なりの表現方法が認め合える学習が大切です。芸術家と呼ばれる人たちには，それなりの努力と時間が費やされて「作品」という形で，眼前にあらわれるのです。図画工作・美術は「芸術家」を育成する教科ではありません。

生涯学習としての「楽しむ美術」を身に付けることで，心も豊かになると考えてみると，気持ちも楽になります。

日本文教出版　ABCシリーズ

小　学　校

研究授業・実践発表

2年 造形遊び

図工科学習指導案

日　時　令和3年10月28日(木)
会　場　盛岡市立高松小学校　集会室
学　級　盛岡市立高松小学校　2年1組
指導者　教諭　長山　茜

１　題材名　「スタンプ，スタンプ!」

２　題材について

（1）児童観

本学級の児童は図画工作科の授業が好きで，「次は何をするの？」と学習を心待ちにしている児童が多い。9月題材の「さわってかくのきもちいい!」では，液体粘土や絵の具の感触を楽しみながら，指や手のひらなどを使って好きな絵を描いたり，画用紙に手のひらで色を混ぜたりして，画用紙いっぱいに表現する楽しさに気付くことができた。

しかし，一方で画用紙いっぱいに，のびのびと表現することを苦手と感じている児童も見られる。そこで本題材では，大きな紙に思いのままに型押しをしたり，体全体を働かせて友達と活動をしたりすることで，表現する喜びを味わうことができるようにしたい。

（2）題材観

本題材は，さまざまな身辺素材を使っていろいろな写り方を試したり，面白い形を見付けたりすることを通して，形から発想する力を培うことをねらいとしている。直接的な描写の表現とは異なり，版になるものを使って形を写し取っていくので，偶然にできる形の面白さを感じたり，できた形から想像を広げたりする楽しさを味わうことができる題材である。

（3）指導観

題材と出会う場面では，教師が事前に身近な素材を使って型押しした作品をクイズ形式にして提示したり，実際に型押しをやって見せたりして，身の回りにあるものが，様々な形の版になることに興味をもつことができるようにする。

試しながら写す場面では，形が写った瞬間の驚きや喜びを共感的に受けとめ，版を使った表現の面白さを十分に味わうことができるようにする。また，友達の表現のよさにも目を向けるように働きかけ，版やインクの色などを交換して写すなど，友達同士で造形的なやり取りを楽しみながら活動を広げるようにしていきたい。

３　研究との関わり

大きな紙を使い共同で活動できる場や，ICT を活用して，活動の途中でも作品を見合うことのできる環境を構成することで友達とつながらせたい。また，型押しの面白さや工夫，色の美しさや楽しさ等，造形活動の楽しさを十分味わうことができるようにし，児童が造形的な見方・考え方を働かせて題材そのものとも主体的につながることができるようにしたい。

４　題材の目標

・転がす・並べる・ずらすなど，手や体全体の感覚を働かせながら，いろいろな素材を写すことを通して，写った形や色の面白さに気付く。【知識及び技能】

・身近な素材を写してできる形や色をもとに，何をどのように写すか考えたり，活動を工夫してつくったりする。【思考力，判断力，表現力等】

・写すことに関心をもち，いろいろな素材の写り方を試しながら，楽しく取り組もうとする。【学びに向かう力，人間性等】

5　指導と評価の計画（2時間）

時数	学習活動	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1 (本時)	・スタンプされた模様を見て，何でスタンプしたかを想像する。 ・好きな色や素材を試しながら，思いのままにスタンプ遊びをする。	・いろいろな素材を写すことを通して，写った形や色の面白さに気付いている。（観察・発言）	・身近な素材を写してできる形や色をもとに造形的な活動を思いつき，どのように活動するか考えている。（発言・観察・対話） ・自分や友達の作品の造形的なよさや面白さに気付いている。（発言・対話）	・写すことに関心をもち，いろいろな素材の写り方を試しながら，楽しく取り組もうとしている。（観察・発言）
2	・一枚の紙に形をつなげたり重ねたり，描き込んだりしながら，スタンプ遊びを楽しむ。 ・自分や友達の表現を見合い，気付いたよさを味わう。	・手や体全体の感覚を働かせながら，絵の具の色を選んだり，形の組み合わせを試したりしながら，表し方を工夫している。（作品・観察）	・写り方を想像し，自分の表現を思い付いたり，考えたりしている。（観察・作品・対話）	・いろいろな素材の写り方を試しながら，楽しく写している。（観察・発言）

6　本時について

	学習活動（学習内容）	○教師の働きかけ ◇支援の留意点	学習評価
導入 5分	1　スタンプ遊びの方法を知り，興味・関心をもつ。 ・「なんの形でしょうクイズ」をする。 2　学習課題を把握する。 いろいろなものをうつして，スタンプあそびをたのしもう。	○模様が何でスタンプしたものか，クイズを出題する。	・身近な素材を写してできる形や色をもとに造形的な活動を思いつき，どのように活動するかを考えている。【思考・判断・表現】
展開 30分	3　学習の見通しをもつ。 ・素材と出会い，その素材を使って型押しをするとどんな形になるかを想像する。 4　いろいろな表現を試してみる。 ・好きな色や素材を試しながら，思いのままにスタンプ遊びをする。 ・好きな色の大きな画用紙を選び，同じ色を選んだ友達と型押し遊びをする。 ・友達の活動の様子も見ながら，やってみたい表現をさらに試す。	○活動の手順等を指導する。 ○どんどん写してみるよう声をかける。 ○活動の中盤でICTを活用し，全体で共有したい表現を紹介し，児童同士の活動をつなぐ。 ◇児童が気付いたことを受容しながら，積極的に活動が広がるような雰囲気作りをする。 ◇自由にのびのびと写したり，試したりできるよう，多種多様な型押しの素材を準備しておく。	・写すことに関心をもち，いろいろな素材の写り方を試しながら，楽しく取り組もうとしている。【主体的に取り組む態度】 ・いろいろな素材を写すことを通して，写った形や色の面白さに気付いている。【知識・技能】
まとめ 10分	5　本時の振り返りをする。 6　本時のまとめをし，次時の見通しをもつ。	○ICTを活用して友達の押した模様や，グループで型押しした模造紙の全体を簡単に鑑賞できるようにする。 ○楽しかったことや発見したことなど，面白いと思ったことを発表させる。	・自分や友達の作品の造形的なよさや面白さに気付いている。【思考・判断・表現】

5･6年 鑑賞

図工科学習指導案

日　時　令和3年10月28日(木)
会　場　盛岡市立高松小学校　体育館
学　級　盛岡市立巻堀小学校　5･6年
指導者　教諭　岡山里沙･室井　博

１　題材名　「風神雷神図を味わう」

２　題材について

（1）児童観

児童はこれまで，アートカードを用いて様々な作品を鑑賞したり，絵画を見比べて想像したことを交流したりする活動を行ってきた。活動を重ねるごとに，形や色に注目して時間や季節，場所等を想像し，自分の言葉で話す力がついてきた。また，友達との見方や感じ方の違いも楽しみながら，作品を鑑賞する力も高まってきた。

作品鑑賞を通して，作品の「細部」や「全体」から受ける印象や作者の作品に対する思いについて交流させたい。また，作品のよさやその価値について味わわせたい。

（2）題材観

国の重要文化財である尾形光琳の「風神雷神図屏風」を鑑賞する。作品は，国立博物館が許可し，帆風美術館が鑑賞用に作成したレプリカである。原寸大の「風神雷神図屏風」を間近で鑑賞することで，作品の迫力を肌で感じることができる。また，背景の金箔の美しさやたらし込みの技法の効果なども実感することができる。製作された時代や風神雷神について知ることで，それぞれの作者の思いを想像したり，日本の美術作品の価値を見出したりすることもできる。

以上の点から，児童の感性を広げ，見方や感じ方を深めるのに適した作品であると考える。

（3）指導観

「風神雷神図屏風」の第一印象を交流してから，作品を鑑賞する。その後，見つけたことや感じたことを交流する場を設定する。作品を間近で見たり，友達と見つけたことを交流したりすることで，新しい見方や感じ方を養うことができる。また，「風神」「雷神」「全体」と見る視点を変えていくことで，作者の作品に対する思いについて交流させ，作品のよさやその価値を味わわせたい。

３　研究との関わり

児童が形や色に基づいて考えたことを広げ，深めるために鑑賞する時間を十分にとる。また，全体交流では，自分の考えを話したり，友達の考えと自分の考えを比較させたりすることも大切にする。児童の感じ取ったことを主体として授業を作りながら，作品の良さや価値に気づかせるように促す。

４　題材の目標

・鑑賞作品を見るときの感覚や行為を通して，形や色，構成などに意味があり，作者の思いが込められていることを理解する。【知識及び技能】
・形や色などの造形的な特徴を基に，感じたことや想像したことを話したり友達の意見を参考にしたりしながら，作品の特徴や作者の思い，日本の美術作品のよさやその価値について，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を深める。【思考力，判断力，表現力等】
・作品のよさや美しさを感じ取ったり，作者の表したいことを考えたりして，自分らしい見方や感じ方を大切にして主体的に鑑賞活動に取り組む。【学びに向かう力，人間性等】

5　指導と評価の計画（3時間）

時数	学習活動	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1 (本時)	・「風神雷神図屏風」を鑑賞して，作品から感じたことや作品のよさ，作者の思いについて考える。	・形や色，構成を基に作品を鑑賞している。	・造形的な特徴を基に，感じたことや想像したことを話したり感じ取ったりしている。	・作品のよさや美しさを感じ取ったり，作者の表したいことを考えたりして，自分らしい見方や感じ方を大切にして主体的に鑑賞活動に取り組んでいる。
2 ・ 3	・「風神雷神図屏風」を見ながら，オリジナルの風神雷神図を描いたり，模写したりする。		・作品の特徴から，描きたい「風神雷神図」を表現している。	

6　本時について

	学習活動（学習内容）	○教師の働きかけ　◇支援の留意点	学習評価
導入 7分	1　作品を見た第一印象を交流する。 2　課題の確認 3　学習の見通しをもつ。	○作品を見た第一印象を教えてください。 ◇作品に布をかぶせておき，外観しか分からないようにする。授業が始まったら，それを取り外して作品と出会わせる。 ◇ぱっと見た作品全体の印象を全員で共有する。 また，T2 が「風神雷神図屏風」という作品であることを伝える。「風神」「雷神」は何かを考えさせる。 ○「風神雷神図屏風」を鑑賞しましょう。 **風神雷神図のよさや美しさを感じ取り、作者の想いを想像しよう。**	
展開 30分	4　作品を自由に鑑賞する。 5　感じたことや想像したことを全体で交流し，自分の考えと比較する。 6　作品について知る。	○「風神雷神図屏風」を自由に鑑賞しましょう。 ◇作品を間近で鑑賞し，自分の感じたことや想像したことをワークシートにメモさせる。 ◇形や色，表情や体，絵がもつ勢いや力強さ等に目を向けさせる。T1，T2 で分担しながら，視点をもてない児童に声をかける。 ◇「風神」「雷神」だけでなく，作品全体の雰囲気や構図にも目を向けさせることで，作者の思いも想像させたい。 ○作品を鑑賞して，感じたことや想像したことを交流しましょう。 ◇「何を感じたのか（想像したのか）」「なぜそう感じたのか（根拠）」「（○○さんは，～と感じていた）けど，私は～と考えた（比較）」等が明確になるように発言させる。 ◇見方や感じ方の違いを実感させるためにも同じ視点（表情や勢い等）で，多様な考えを引き出す。 ◇「風神」→「雷神」→「全体」と交流する視点を広げていくことで，作品全体の印象や構図にも目を向けさせていく。 ◇「風神」「雷神」の意味も想像させる。 ○この作品は，江戸時代に描かれた国宝で，尾形光琳という人の作品です。 ◇俵屋宗達が最初に「風神雷神図」を描き，その素晴らしさに感銘を受けて，尾形光琳も描いたことを伝える。また，酒井抱一にも触れる。また，俵屋宗達，酒井抱一の作品も提示し，比較できるようにする。 ◇「風神」「雷神」が描かれるようになった背景を簡潔に説明する。 ◇さらに，作品に込められた作者の思いや願いも想像させたい。	・造形的な特徴を基に，感じたことや想像したことを話したり感じ取ったりしている。 【思考・判断・表現】 ・作品のよさや美しさを感じ取ったり，作者の表したいことを考えたりして，自分らしい見方や感じ方を大切にして主体的に鑑賞活動に取り組んでいる。 【主体的に取り組む態度】
まとめ 8分	7　本時の学習を振り返る。	○鑑賞した感想や自分ができるようになったことを紹介しましょう。 ◇作品のよさや美しさ，作者の思い等について感想を述べさせる。 ◇作品に出会った喜びや鑑賞活動を通しての自分の成長（変化）についても語らせたい。	

2年 絵

図工科学習指導案

日　時　令和3年10月28日(木)
会　場　岩手大学教育学部附属小学校　体育館
学　級　岩手大学教育学部附属小学校　2年ふじ組
指導者　教諭　上田佳穂

1　題材名　「線から生まれるものがたり」

2　題材について

(1)児童観

児童はこれまで,「すきなことなあに(絵)」で, 自分の好きなことは何か, 自分自身と対話しながらクレヨン, パスを使って表してきた。また,「もしもこんな花があったら」では, 想像の中に生まれた, 不思議な力をもつ花をクレヨン, 絵の具で表してきた。今回の題材では, 絵の具の線でできた模様からお話を思いついたり, 考えたお話を友達と語り合ったりしながら, 表現することを楽しませていきたい。

(2)題材観

本題材は, 垂らす絵の具をつくり, 画板を動かしながら模様をつくっていく題材である。できた模様を様々な向きから見てみることで, 新たなイメージが生まれ, 想像したことから表したいことを見付けていく。新たな発想が生まれたりイメージを広げたりできるようにしていきたい。製作途中で鑑賞し合うことで, 更に物語を進行させたり, 自分なりの意味や価値をつくり出したりすることができるようにしたい。

(3)指導観

垂らす絵の具で偶然できた模様から, 何かに見立てたり, 物語を考えたりすることを楽しむ題材である。友達と模様を見せ合うなど, 思いをつなぐ時間を十分にとるようにし, 感じたことを交流しながら, 新しい発想を思いついたり, かきたいイメージを広げたりできるようにする。

3　研究との関わり

導入場面で, 線から何がイメージできるか全体で話し合う場を設定する。登場人物(人や動物, 植物等自由に発想させたい)や背景(建物や景色)など, 様々な考えを出させたい。「線から物語が生まれる」という題材の流れを, 児童がある程度理解し,「やってみたい!」という気持ちが十分に高まってから製作場面に入るようにしていく。また, 製作途中で友達と見合ったり, イメージを交流し合ったりする場を意図的に設定することで, 発想や構想などの創造的思考力を高められるようにしていきたい。

4　題材の目標

・絵の具を垂らしてできた線から形を見付け, 表したいことを工夫して表す。【知識及び技能】
・見つけた形や色などを基に, 自分のイメージをもちながら, 想像したことや表したいことを見付け, どのように表すかについて考える。【思考力, 判断力, 表現力等】
・つくりだす喜びを味わい, 思いついたことを楽しみながら表現する学習活動に取り組む。【学びに向かう力, 人間性等】

5　指導と評価の計画(4時間)

時数	学習活動	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	・絵の具を垂らし, 画板を動かしながら模様をつくる。	・垂らす絵の具に慣れると共に, 手や体全体の感覚などを働かせ, いろいろな形や色などに気付いている。(観察, 作品)	・垂らす絵の具の造形的な面白さや楽しさについて感じとったり考えたりしている。(観察)	・楽しく絵の具で線をつくる学習活動に取り組んでいる。(観察)

2 (本時) ・ 3	・模様からお話を考え，思いついたことをかき足す。	・思いついたことを表す行為を通して，表し方を工夫している。(観察，作品)	・いろいろな形や色を基に，自分のイメージをもちながら，表したいことを見付け，どのように表すかについて考えている。(観察，つぶやき，発言)	・つくりだす喜びを味わい，楽しくクレヨンやパスでかきながら，思いついたことを表す学習活動に取り組んでいる。(観察，つぶやき)
4	・鑑賞する。		・自分や友達の作品の面白さや楽しさを感じ取り，気付いたことを伝え合っている。(学習シート，発言)	

6　本時について

	学習活動(学習内容)	○教師の働きかけ　◇支援の留意点	学習評価
導 入 10分	1　前時の確認 ・前時の学習を振り返る。 ・絵の具を垂らして線をつくったことを確認する。 ・全体で，作例から何が見立てられるか話合い，本時の活動について理解する。 2　課題の確認 **学習目標　線や形から思いついたことを話し合ったりかき足したりしよう。** 3　学習の見通しをもつ ・絵の具を垂らしてできた線から何に見えるかをペアで話し合う。	○絵の具を垂らした時の学習の様子の写真を提示し，前時の活動を振り返る。 ○偶然できた線の面白さについて味わう時間を十分にとる。 ○線の形や色から，何が見立てられるか問い，イメージを広げさせる。 ○模様からお話を考えていくことを確認する。 ○線の模様からイメージを膨らませる楽しさに気付かせる。全員が活動の見通しをもつことができたか確認しながら進めていく。	
展 開 30分	4　線の模様から思いついたことを話し合ったり表したりする。 ・自分の模様や友達の模様を見て気付いたことや思い付いたことを話し合う。 ・お話を伝え合iながら，表したいことをクレヨンやパスで表す。 ・「○○な感じ」，「○○の世界」などの印象を発表し合う。 ・友達と話し合いながら製作し，イメージをさらに広げていく。	○児童がもったイメージなどを聞き，共有する。 ◇表したいイメージが思い浮かばない児童に対しては，形から見立てることを一緒に活動しながら確認する。 ○机間指導しながら，「この形，何に見える。」などと質問し，イメージを広げることができるようにする。 ○印象を聞くことで，更にイメージを広げられるようにする。 ○かいた形や色から面白い発想をしている児童を認め，全体に広げていく。 ○どんなお話か児童に聞き，面白さや楽しさを児童と共有する。	評価 ・いろいろな形や色を基に，自分のイメージをもちながら，表したいことを見付け，どのように表すかについて考えている。 【思考・判断・表現】 (観察，つぶやき，発言)
まとめ 5分	5　まとめとふりかえり ・本時の活動を振り返る。	○今までの絵をかいた経験との違いを聞き，本題材の特徴や面白さについて振り返る。	

4年 工作

図工科学習指導案

日　時　令和3年10月28日(木)
会　場　盛岡市立見前小学校　第一音楽室
学　級　盛岡市立見前小学校　4年3組
指導者　教諭　平野有華

1　題材名　「願いの種から」

2　題材について

(1)児童観

「つけて，のばして，生まれる形」(立体)では，「4年3組島にいる未知の生物」をテーマに発想を広げる活動を通して，自分の表したい思いにこだわりをもちながら表現しようとする力が身に付いてきた。「木々をみつめて」(絵)では，木々の形や色，触れた感じなどをもとに自分の表したいことを「色」と「筆使い」を工夫して表現する活動を行ってきた。

(2)題材観

本題材は，自分の願いや夢からイメージを広げることを通して，新たな気付きや発想など自分の見方・考え方を広げることのできる題材である。この題材を通して，自分の願いを込めた種から花や実を成長させつくる喜びを味わうとともに，自分の願いの実現に向けて主体的に取り組むことへもつなげたい。

(3)指導観

指導では，「4年3組島に願いの種を植えよう」というテーマを設定し，わくわく感をもちながら自分の願いや思いを種に込めることができるようにする。込めた思いを材料の特徴を生かしながら表現することができるように，工夫例の掲示，材料・試しコーナーや4年3組島の模型を設置する。

3　研究との関わり

材料・試しコーナーで児童同士が自然発生的な学び合いにより，新たな気付きや感性の広がりが生まれるようにする。また，製作中での自由な鑑賞活動も認め，自分で試行錯誤することと同時に友達の作品を見て広がるイメージも授業の中で大切にしたい。

4　題材の目標

・材料や用具を適切に扱うとともに，前学年までの材料や用具についての経験を生かし，手や体全体を十分に働かせ，表したいことに合わせて表し方を工夫する。【知識及び技能】
・形や色などの感じを基に，自分のイメージをもち，形や色，材料などを生かしながら，どのように表すかについて考える。【思考力，判断力，表現力等】
・つくりだす喜びを味わい，進んで自分が考えた「願いの種から」の表現に取り組もうとする。【学びに向かう力，人間性等】

5　指導と評価の計画(6時間)

時数	学習活動		評価規準(評価方法)	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	・夢や願いについて話し合い，それらを叶えてくれる種を想像する。		・自分の願いや夢から表したいことを想像し，アイディアスケッチをしている。	

2 ・ 3 ・ 4 (本時) ・ 5	・種の表し方を工夫してつくる。 ・どんな枝葉や根，茎，花，実がなるか想像を広げ，材料の特徴や組み合わせ方の違いを生かして表す。	・材料や用具を適切に扱い，手や体全体を十分に働かせ，表したいことに合わせて表し方を工夫している。	・形や色などの感じを基に，自分のイメージをもち，形や色，材料などを生かしながら，どのように表すかについて考えている。	・つくりだす喜びを味わい，進んで自分が考えた「願いの種から」の表現に取り組もうとしている。
6	・友達の表し方の工夫や違いについて話し合う。		・作品のよさや面白さ，表したいこと，表し方について感じ取ったり考えたりし，見方や感じ方を広げている。	・自他の表し方の違いやよさに関心をもち，進んで話したり聞いたりしている。

6　本時について

	学習活動（学習内容）	○教師の働きかけ　◇支援の留意点	学習評価
導 入 5分	1　前時の確認 2　学習課題を捉える **自分の願いの種を成長させて花や実をつくろう**	○前時の活動を振り返り，本時の学習に意欲をもたせる。 ◇アイディアスケッチをもとにどんな花や実をつくるか思いが膨らむようにする。	
展 開 35分	3「願いの種」から想像を膨らませ，それぞれの思いや願いを表す。 ・種から伸びる枝について，感じ方や好きな枝について考えを交流する。 ・枝や根の面白い伸び方や自分の願いが具体的に伝わるような花や実のイメージを膨らませ，材料や用具の特徴を生かしてつくる。 ・自分が用意した材料と材料コーナーの中から，根や枝となる材料を選ぶ。	○枝の作例を示し，材料によって感じ方の違いがあることに着目させる。 ◇試しや材料コーナーでは，いろいろな材料に触れさせ，アイディアが生まれるようにさせる。 ◇材料の接着や特徴の生かし方の例を一部掲示することで，児童の作品のイメージが膨らんでいくようにする。 ○製作中でも，友達の作品を見たり模型に作品を置いたりしてよいことを伝え，新たな発見やイメージの広がりにつなげる。	・つくりだす喜びを味わい，進んで自分が考えた「願いの種から」の表現に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分の身近な願いや夢から想像を広げ，形や色，材料等を生かしながら，どのように表すかについて考えている。 【思考・判断・表現】 （観察，対話，作品）
まとめ 5分	4　本時の振り返りをする。 ・種から自分の思いや願いを表すことができたかや工夫できたと思うこと等の感想を発表する。	○活動の振り返りをさせ，自他のよさを認め合わせることによって今後の表現活動の意欲につながるようにする。 ○友達のよさを見付けた児童がいた時は，取り上げ全体で交流する。	

2年 立体

友達とつながり　ふくらむ喜び
～手ぶくろでへんしん　ぼくとわたしの友だち～

授業者　岩手県盛岡市立上田小学校　教諭　岩部みな
助言者　一戸町立一戸南小学校　校長　吉田武雄

１　題材について

本題材は，軍手を主な材料とし，折ったり重ねたりして新しい形につくり変え，どんな生き物をつくろうか工夫して表すことを楽しむものである。

軍手という身近な材料でも普段と違った視点で見ることで，様々な形に見えてくることに気づき，その形を何かに見立てることを通して，つくりたい自分だけの生き物のイメージを広げ，表し方を工夫して造形活動を楽しむ題材である。

２　題材の目標

・軍手を折ったり重ねたりしてできた形をもとに，作りたいものを思いつき，どのように表すか考えている。
【思考力，判断力，表現力等】

３　学習計画（4時間）

（1）参考作品をもとに「友だち」をつくることを知り，制作の見通しをもつ。----------（15 分）
（2）軍手を折ったり重ねたりして面白い形を見つけたり，見立てたりする。----------（30分）
（3）できた形から発想を広げ，思いついた生き物（友だち）の表し方を工夫してつくる。--------（90分）
（4）友達と作品を見合い，違いやよさについて気づき，互いに認め合う。----------（45分）

４　授業の概要

本実践は，男子9名，女子16名，計25名の学級で行った。学習では，4～5人の6班構成で活動した。

手立て❶　「やってみたい」という思いを高める導入

本題材では，児童に「やってみたい」という思いを高める手立てとして，シルエットクイズでの導入を行った。色々な考えを出し合った後，材料は何かと問いかけ実は軍手でできていることを見せると，驚きとともに「自分でも作ってみたい」「早く触ってみたい」と児童の活動への意欲を高めることができた。

手立て❷　友達とつながる場の設定

隣の友達の表し方や工夫を見たり，自分の作品を友達に教え合ったりする姿が自然に生まれるように，学習での形態は少人数グループにした。この形態で活動を繰り返すうちに友達との関わりの中で，発想を広げることができた。また，「どうやったの」と友達からたずねられることで，自分の表現のよさに気付き，自己肯定感が高まった。

製作途中に教師が児童の作品を紹介する時間を設け，他のグループの友達がどのような作品をつくっているのか，工夫をどのようにしているのか気付けるようにした。自分の作品と比べることで，表現の違いや共通

点を見付け，自分の作品に工夫を生かす姿が見られた。

友達の作品を見合う児童

「さらに〇〇っぽくするにはどうすればいいと思いますか。」など教師が発問することで，友達の表現の工夫の中で，どこに目を向けたらよいか焦点化して気付かせたり，取り入れたりする児童がさらに増えた。

手立て❸　喜びをふくらませるために

児童は様々な工夫をしながら製作活動を進めていた。しかし，それがどんな工夫なのか，説明することは難しかった。そこで工夫を紹介する際，どんな言葉で言い表せばいいのか，児童の工夫をラベリングするようにした。形の工夫では「折る」「重ねる」「結ぶ」「切る」，飾り方の工夫では「ねじる」「貼る」「塗る」「垂らす」「つくる」などがあげられた。作品を見合う場面では，自分の工夫を，ワークシートに書いてから交流した。自分がどんな工夫をしたのか，言葉で表現した上で，友達と交流することで，自分の思いを伝え，友達に共感・理解してもらい，喜びや満足感を味わうことができた。

5　成果と課題

（1）成果

材料である軍手からつくられた「形」に児童の意識を焦点化させる手立てとして，シルエットクイズを導入に取り入れた。色や素材などの情報をあえて隠すことで，児童は「形」に着目し，発想を広げることができた。また，シルエットクイズの後，参考作品を実際に見せることで，不思議な形が実は自分たちにとって身近な軍手でできていることを知り，「自分も作ってみたい」「面白い形ができそう」と意欲を高めることができた。

学習の場を班隊形にすることで，自然に表現の工夫や思いを交流することができた。児童のもつ，「自分の作品の良さを誰かに伝えたい」「友達がどんなふうに表しているのか知りたい」という学びへの欲求を満たしながら活動することができた。

（2）課題

今回の学習では，形に着目し，そこから想像力をふくらませ，どのように表すか考えることを目標としていた。しかし，軍手と飾りに使う材料を，間を開けずに提示してしまい，形を工夫することよりも飾り付けに意識が向いてしまう児童もいた。より形に着目し，発想を広げるためにも，軍手での形作りの時間を十分確保し，試行錯誤を繰り返すようにすることが必要だと考える。そうすることでより教材とのつながりが深くなり，形の工夫が広がったと思う。

自分たちの工夫をラベリング化し，自分や友達の工夫が具体的にどのようなものか取り上げるようにした。作品を見合う時間では，積極的にその言葉を活用して表現している児童も見られたが，一部の児童に限られた。目の前の工夫や良さがどのようなものか，正しく表現できるようになるためにも言語活動を充実させていきたい。それを通して思いのつながりや広がりのある図工の学習になるように努めてきたい。

2年 造形遊び

友達と思いをつなげ，学びを深める表現活動

「つないで　つるして」

授業者　岩手県宮古市立千徳小学校　教諭　今野瑶子
助言者　一戸町立一戸南小学校　校長　吉田武雄

１　題材について

本題材は，学習指導要領の第１学年及び第２学年のＡ表現（１）ア「造形遊びをする活動を通して，身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや，感覚や気持ちを生かしながら，どのように活動するかについて考えていること。」に基づいている。

紙という身近な素材の感触をあらためて手や体全体で感じ，はさみで切ったり手で破いたりし，つなげた形などから表したいものを見付け，表現することを主なねらいとしている。つなげ方やつるし方を工夫してトンネルや遊具などの具体物をイメージし，一人だけでなく友達と表現することで互いの表現の面白さを見付け合いながら学習を進めていくことができる題材である。

また，平面的な表現だけではなく，机や椅子など場を工夫することで，空間的な表現など自分の表したいものに合わせた様々な表現ができる題材である。

２　題材の目標

・細い紙をつないだりつるしたりする行為を通して，いろいろな形や色などに気付き，表したいものを見付けることができる。　【思考力，判断力，表現力等】

３　学習計画（4時間）

（１）学習活動を知り，細長く切った（破いた）紙をつないだりつるしたりしてできた形や色から，どんなものがつくれそうかイメージをもつ。----（15 分）

（２）紙をつないだりつるしたりして“〇〇ランド”をつくる。----------（30分）

（３）友達の作品から感じ取った面白さを共有し，自分の学びについて振り返る。----------（90分）

４　授業の概要

（１）導入

手立て❶　子ども達の意欲を高め，活動のイメージをもたせる導入の工夫

子ども達の意欲を高め，一人一人にイメージをもたせるため，ペーパー王国の王様から「紙をつないだりつるしたりして，みんなが遊べる“〇〇ランド”をつくってほしい。」という依頼があったという設定で導入を行った。子ども達は王様から自分たちに特別な依頼があったことに喜び，活動への意欲を高めていた。

“〇〇ランド”にあったら素敵だと思うものを考えさせることで，細長く切った（破いた）紙でどんなものを作るか，具体的なイメージをもたせた。

活動の最後には，みんなで作品を見合ったり，遊んだりすることを伝え，子ども達の意欲をさらに高めるとともに，活動の見通しをもたせた。

（２）表現活動

手立て❷　表現のよさを共有する場の設定

子ども達が友達の表現のよさを見付け，発想を広げることができるように，活動の中で子ども達が見つけた，捻る・丸めギザギザにするなどの表現方法を交流し合いながらグループで活動できる場を設定し

た。また，グループで気付いたつなげ方やつるし方などの工夫を紹介し，どんな形や色がすてきなのか気付いた表現のよさを話し合わせ，作りたいものへのイメージをさらに広げさせた。児童が気付いたつなげ方やつるし方は，「長く」「ギザギザに」などと板書に位置付け，児童の活動に生かすことができるようにした。

（3）鑑賞

手立て❸　遊びを通し，表現のよさに気づかせる鑑賞活動

“〇〇ランド ” の名前を子ども達と話し合い，「ペーパーラッキーランド」に決め，ペーパー王国の一員になったつもりで，紙でつくった王冠や腕輪などを身に付け，紙の下をくぐったり王様を紙の上に乗せたりして遊ぶことを鑑賞の活動とした。

遊びの中で気付いた友達の表現を紹介し合い，そのよさや面白さを認め合うことで，子ども達の発想をさらに広げることができた。

5　成果と課題

（1）成果

・王様から「“〇〇ランド ” をつくってほしい。」という依頼があったという設定にしたことにより，子ども達が題材に興味をもち，つくりたいものへのイメージをもちながら見通しをもって活動に取り組むことができた。

・表現のよさを共有できる場を設定することにより，友達と関わり合いながら表現する面白さに気付かせるとともに，友達のよさを見付けて自分の表現に取り入れることで，発想を広げさせることができた。

・表現したもので遊ぶ活動を鑑賞の活動とすることにより，自分や友達の表現のよさを体全体を使って実感させ，発想をさらに広げ，表現活動への意欲を高めることができた。

（2）課題

・振り返りを工夫し，活動で学んだ友達と関わり合うよさや表現の工夫のよさをさらに自覚させていきたい。

◎　おわりに

今回の実践を通して学んだことを生かし，今後も題材や場を工夫し，友達と関わり合いながら表現できる活動を促し，子ども達の発想を広げられるような学習を展開していきたい。

1年 鑑賞

思いが広がる鑑賞
～すきないろ・すきなかたち～

授業者　岩手県奥州市立水沢南小学校　教諭　佐藤史織
助言者　奥州市立常盤小学校　校長　加藤　均

１　題材について

本題材は，学習指導要領の第１学年及び２学年のＢ鑑賞（１）ア「身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して，自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ，表したいこと，表し方などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げること」を受け，作品の面白さや楽しさ，表し方などを感じ取ることができるようにするため，二つの鑑賞活動を設定した。

２　題材の目標

・作品の形や色などをもとに，自分のイメージをもち，そのよさを感じ取ることができる。【思考力，判断力，表現力等】
・つくりだす喜びを味わい，楽しく鑑賞しようとする。【学びに向かう力，人間性等】

３　学習計画（4時間）

（１）アートカード学習----------（１時間）
（２）スタンプスタンプ ----------（５時間）
　① 作品制作（4時間）　② 鑑賞（１時間）

４　授業の概要

【活動１】アートカードでの鑑賞

４～５人グループにアートカード２０枚（絵画作品のみ）を１セットとし，机の上で自由に鑑賞させた。児童からは，「これ見たことある」「これ知っているよ」という声があがり，これから始まるアートカード学習に興味津々な様子だった。

この活動では，「作品の形や色などをもとに，自分のイメージをもち，そのよさを感じ取ることができる」ことを目標に，以下の手立てを組んだ。

手立て❶　鑑賞の視点を明確にする。
色や形に着目し，４つの季節に分けることで，自分なりのイメージをもつ。

この学習の前に，生活科で四季について学習していた。そこで，それぞれの季節の特徴や遊びの経験を生かし，「季節集め」という鑑賞活動を行った。この活動は，アートカードそれぞれの色や形に着目して，４つの季節に分けていく活動である。絵の色や形からの印象や人物の表情，服装等から推測し，どの班も思い思いの季節集めをすることができた。また，「せりふ当てクイズ!」では，教師が提示するせりふがどの絵画を指しているか当てる活動も行った。どの子も絵画の登場人物や色，形をよく観察し，クイズの答えを探していた。

振り返りでは，20 枚のアートカードから気に入った作品を一つ選び，その理由を発表させた。「チューリップが春らしくて好き」「いろんな色があってきれいだった」等，色や形にこだわって鑑賞していた。

【活動２】「スタンプスタンプ」の単元でつくった児童自身の作品の鑑賞

① 作品制作（4時間）

遠足で訪れた公園でクジャクを目にした驚きをきっかけに，クジャクを描きたいなあと話す児童が多く現れた。そこで，紺の画用紙に白のパスでクジャクの顔や体を描き，羽の模様部分に野菜の断面スタンプを用いて彩った。用意した野菜は，ピーマン，人参，オクラ，じゃがいも，れんこんの5種類。各班に5種類全てが渡るように用意した。今回初めて集団絵の具から個人絵の具に移行し，児童一人ひとりがそれぞれのパレットで混色を楽しんだ。どの児童も失敗を恐れず伸び伸びと製作することができた。

製作の過程で，色にこだわる児童が多く見られたのは，クジャクの羽の美しさに魅了された児童が多かったためと思われる。スタンプで表すことが楽しかったのか，同じ班の友達が作った色を見て，作り方を尋ねたり，気に入った色を見せたりする姿が見られた。

② 鑑賞（1時間）

この活動では，「つくりだす喜びを味わい，楽しく鑑賞しようとする」ことを目標に，以下の手立てを組んだ。

手立て❷　対話の場を設定する。

教師対児童，児童対児童の対話で，一人ひとりの見方や感じ方を広げる。

初めての本格的な鑑賞活動になることから，思ったことを自由に話せるようにしたいと考え，3色の付箋紙を用意した。ピンクは「自分の作品で好きなところ」，緑は「友達の作品で好きな形のところ」，青は「友達の作品で好きな色のところ」と指定し，書き込ませた。

自分の作品，同じ班の友達の作品，最後に同じ学級の友達全員の作品へと広げていった。

振り返りでは，「楽しかった」「面白かった」「よかった」「きれい」等の単純な感想から，「この水色が光っているようできれいだ」「オクラの形がお花みたいでかわいい」「黒色を使うとかっこいい」等の色や形にこだわった感想交流となった。

5　成果と課題

（1）成果

色彩豊かで種類も豊富なアートカードを使用したことにより，言語活動が活発になった。

視点に沿って3色の付箋を配布したことで，形に注目しているのか色に注目しているのか，その児童がこだわっている視点が可視化できた。

事前に付箋を記述させていたため，話すことを苦手としている児童も安心して自分の思いを話すことができた。

自分の作品のよさを記述させたピンクの付箋よりも，友達の作品のよさを記述させた青と緑の付箋の数が明らかに多く，自分の作品のよさだけでなく，相手の作品のよさに気付き，受け止められる児童が増えてきた。

（2）課題

鑑賞の視点を明確にしたことで，題材の見方・捉え方も明確になり，児童は言語表現に困ることなく交流することができた。しかし，アートカード学習においては，視点を明確にすることがかえって考えを狭めてしまうような場面があった。例えば，複数の絵画を四季で分ける際，必ずしも「色」と「形」で判断するわけではないことに気付かされた。そこに描かれる植物や模様，表情や服装等，季節を感じる要素がたくさんあり，児童によってはそれらを区別することなく，自由に捉えていた。用いる題材や児童の実態に合わせて，視点の明確化を柔軟に行っていきたい。

４年 鑑賞

「からだでかんしょう～まねっこ美術館（ミュージアム）を開こう～」

発表者　青森県青森市立荒川小学校　教　諭　松浦　純

１　題材について

本題材は，西洋や日本の様々な名画や彫刻などの美術作品を鑑賞し，感じたことを互いに話し合いながら，作品に描かれている要素や構図等を，協力し体全体を使って「真似る」（再構成する）という活動である。「真似る」活動を通して，より作品に親しみながら，作品に対する見方や感じ方を深めていくことをねらいとしている。

学級の全体的な傾向として，これまで美術作品をじっくり見るという体験は少ないが，表現することや絵を見ることが好きな児童が多い。

指導にあたって，グループでの活動を取り入れていくことで，美術作品を進んで見たり，感じたことを自然に言葉に表したりしやすくなるのではないかと考えた。

鑑賞教材ではあるが，体全体を使って美術作品を協力し工夫して再構成する楽しさは表現活動にも通じる。美術作品から受けた感じを友達と活発に交流し，協力し合って体全体で表現し，それを踏まえてもう一度鑑賞を深める，即ち，活動を通して言語活動の充実と「鑑賞と表現を往還する学習過程」を図る題材設定を行った。

２　題材の目標

・美術作品の特徴や作品から受けた感じを表すために，表現の仕方を工夫することができる。

【知識及び技能】

・美術作品の特徴を見付け，気付いたことや面白さを友達に伝えたり，友達の感じ方を聞いたりするとともに表したい形や感じを考えることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

・体全体を使って美術作品のよさや面白さを感じる活動を楽しむことができる。

【学びに向かう力・人間性等】

３　授業の概要

２時間扱いの指導計画とし，１次を題材との出会いの場として全グループで「モナ・リザ」を鑑賞し，ポーズや背景などから受ける感じや気が付いたことをグループごとに話し合った。

児童からは，「歯を見せないで笑っている」「うれしそう」「右を向いている」「後ろに道が続いている」「外にいるのかな」等の意見が出された。その後，どんなところに注目して真似をしたらよいのかを共有し，実際に真似て，その写真画像『作品』をタブレットで撮影した。

背景の木や色の感じを新聞紙で表したグループもあり，人物だけでなく絵画のもつ雰囲気にも注目して『作品』づくりを楽しんでいる様子が見られた。そこで次時は，１人の人物が描かれている絵画ではなく，グループ何人かで真似ることができそうな美術作品のアートカードを，予め教師が１５枚ほど用意した。

２次は，真似をする際のポイント（表情・色・形・ポーズ・背景・人物の気持ちなど）を確認した後，アートカードからランダムにグループで１枚を選ばせ，その作品から受ける感じや特徴を話し合う活動から入った。児童は，タブレットで撮影した画像とアートカードを見比べ，注目するポイントを意識しながら何度も撮影していた。

その後，ワークシートに活動の感想を記入し，他のグ

ループの『作品』をモニターに映して見合う活動をした。それによって，ポイントを意識して見合ったり，感想を話し合ったりするなど，『作品』を通して振り返る活動ができた。

◆児童の感想から

①よく見ると奥にも人がいた。

②少し斜めから写真をとった。（斜めの構図を意識）

③こちらを向いているから誰かいるのかもしれない。

④考える人は裸足だった。何を考えているのだろう。

4　成果と課題

○協力して表現できるようなアートカードを用意したことで、対話が生まれ楽しく取り組むことができた。

○タブレットを使って撮影したことで、グループ内で活動中の振り返りや改善に活用することができた。また、記録として残るので評価にも活用できた。

○本題材を終えたあと、美術作品や友達の作品について見る視点や見方の深まりが見られた。

●本物の美術作品の質感や大きさを肌で感じさせ、彫刻などは実物をあらゆる方向から見るという実体験などから感じ取ることで、さらに見方や感じ方が深まっていくと思う。

中　学　校

実　践　発　表

3年 彫刻

心のふるさと　～彫刻に思いを込めて～

発表者　岩手県滝沢市立滝沢第二中学校　教　諭　佃　里子
助言者　岩手県県南教育事務所　指導主事　雪ノ浦達雄

1　題材について

本題材は，自分の心の中にある「温かいふるさとへの思い」を，彫刻で表現する題材である。繊細な表現や立体的な彫刻表現がしやすいように彫刻専用板を使用した。本題材を通して，滝沢や岩手のよさ，ふるさとの温かさ，大切さ，誇らしさなどとともに，地域とのつながりや心のつながりを感じ取らせ，生活や社会と心豊かに関わる力を育むことに力を入れていきたい。また，伝統文化である浄法寺漆について学ぶことで，岩手県という広い意味のふるさとへの思いや興味も深めたい。

2　題材の目標

・形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解するとともに，材料や用具の特性を生かし，ふるさとへの思いを自分の表現方法を追求して創造的に表す。　【知識及び技能】
・ふるさとへの思いを基に主題を生み出し，単純化や省略，強調，彫り方，材料の組み合わせなどを考え，創造的な構成を工夫して木彫の構想を練るとともに，作者の心情や表現の意図，創造的な工夫，木彫や漆のよさ，美しさなどを感じ取り，交流活動を通して見方や感じ方を深める。【思考力，判断力，表現力等】
・美術の創造活動の喜びを味わい，自分と地域とのつながりについて，考えを深めようとするとともに，郷土の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深め，主体的に創意工夫して作品を制作したり，鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。
【学びに向かう力，人間性等】

3　学習計画（15時間）

(1)郷土の伝統工芸や漆について考える-----（1時間）
(2)主題，構想を練る----------（1時間）
(3)基本彫りを練習する ----------（3時間）
(4)デザインを考える----------（3時間）
(5)制作する ----------（6時間）
(6)作品鑑賞，交流会 ----------（1時間）

4　授業の概要

幼いころ家族と一緒によく遊んだ池での温かい思い出を表現した生徒作品

地域の素材である浄法寺漆について学び，地域について考えるきっかけとした。また，浄法寺漆について学習することで，地域に根付く伝統文化に興味や関心をもたせた。この地域素材を学習することによって，ふるさとへの思いや誇りをもたせるとともに，作品への思い入れを深めさせたい。

この題材の「ふるさと」では，生まれ育った土地や故郷というだけでなく，人とのつながりや温かさ，家族や支えてくれる人々への感謝の気持ち，仲間との思い出などにも視野を広げさせた。

生徒は思いを膨らませながら主題を考え，どんな形や色彩で制作するかなどを構想した。彫刻専用板は黒や白から自分の構想に合った素材を選択した。漆は混色可とし，生徒が選択できる範囲を広げることで，より

意欲的・主体的に制作し，ものづくりの楽しさ，喜びを味わわせたいと考えた。

片切彫り，薬研彫り，菱合い彫り，浮き彫り，石目彫りなどの基本彫りを早い段階で学習することで，彫刻を前提としたデザインを考えた。

生徒のふるさとへの思いにより迫った表現を追求するには「生徒と生徒の思いをつなぐ交流活動」が有効である。それぞれの主題やデザインをもとに，そこに込めた思いや，表現の工夫などを３～４人の小グループで相互に発表し，考えを広げたり深めたりした。

見るたびに，ふるさとのことや懐かしい思い出を想起し，美術を愛好し，たくましく，心豊かに生活してほしいという思いから，完成後に飾ったり眺めたりすることを想像させながら制作に取り組ませた。

授業にあたり，岩手の授業づくりの重点を意識し，見通し，導入，展開，まとめ，振り返りを意識して授業を組み立てた。板書は毎時間，同じ項目を同じ場所につくったり，評価の観点を掲示したりするなどして，ユニバーサルデザインを意識した板書づくりにも努めた。また，生徒が見通しをもって学習に取り組めるように振り返りシートに記入させながら授業を行った。

四季をイメージし，滝沢の魅力や誇りと感じる「チャグチャグ馬コ」などをデザインした生徒作品

５　成果と課題

○漆の学習を通して，地域に根付く伝統文化に興味や関心をもつ生徒が増えた。また，生活の中の美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたり深めたりすることができた。

○ふるさとへの思いを主題に作品を制作することで，自分の存在やふるさとへの思いを深めさせ，自分をとりまく人々の温かさや環境にも気付かせることができた。

○生徒が選択できる範囲を広げたことで，創意工夫の幅が広がり，より意欲的・主体的な活動になり，ものづくりの楽しさ，喜びを味わわせることができた。

○題材の「ふるさと」を，人とのつながりや温かさ，家族や支えてくれる人々への感謝の気持ち，仲間との思い出などにも視野を広げたことで，生徒にとっての「ふるさと」は多様に広がり，個性豊かな表現とともに自己を形成したり新しい意味や価値を創造したりすることにつながった。

○彫りやすい彫刻専用板を使用したことで，彫ることに面白みを感じ，立体的な彫刻表現をすることに夢中になったり，制作に達成感や満足感を感じたりする生徒が増えた。

○デザインを考える工程において，アドバイスや批評をし合う「生徒と生徒の思いをつなぐ交流活動」を設定することによって，生徒の「思い」や「発想」，「イメージ」が明確になるとともに，幅広い考えや表現方法を知り，どのように表現するかについて考えを深めさせたり，創意工夫させたりすることができた。

●生徒の主題や思いを大切にするのみならず，生徒の学習状況を見極め，表現についての指導をバランスよく的確にしていくことが必要である。

●美術科の学習で身に付けた資質・能力を生活や社会の中で生かし，生徒が美術や美術文化と豊かに関わる学習活動の在り方についてより一層考えていきたい。

作品鑑賞会で並べた生徒作品

全学年　鑑賞

多様なつながりを意識して行う鑑賞環境づくり

発表者　岩手県盛岡市立上田中学校　教　諭　小山祐太
助言者　岩手県県南教育事務所　指導主事　雪ノ浦達雄

１　テーマについて

生徒が「わくわく感」や「達成感」を感じ，授業への意欲を喚起するために，様々な題材と関連させながら，つなぐ対象を具体的に意識して行った校内鑑賞環境づくりの工夫についてまとめた。

２　概要

(1) マークデザインパンフレット配布

～保護者，教員とつなぐ～

伝達デザインの学習では，ただなんとなく考えるのではなく，「本当に伝わるデザインになっているか」という相手意識をもって取り組むことが大切だと考える。そこで，盛岡市の魅力を表すマークデザインの題材において，生徒が伝える対象を明確にイメージした上で考えることができるように，導入の段階で「全校生徒はもちろん，先生方や保護者にも魅力が伝わるかどうか，見ていただきます。」と生徒に伝えた。コンセプトとしては，身近な盛岡の魅力を再発見してもらうことであり，最終的に完成した作品は，パンフレットの形で教員や保護者に見ていただいた。構想の段階で，自然にお互いの作品をチェックし始めるなどの姿も多く見受けられ，例年よりも「本当に伝わるかどうか」に意識が向いているように感じられた。完成したパンフレットを配布すると，「これって何を表しているんだろう？」と他クラスの生徒の作品について自然と主題を考える生徒の姿が印象的だった。

◆伝わる実感をもたせるための工夫

実際に「伝わった」という達成感を生み出すために，教員には題材のねらいを伝えた上で特に魅力が伝わる作品を制作した作者に賞状を作成してもらったり，他学年の生徒から受け取った感想を生徒に伝えたりした。過去の実践としては，デザインしたものを他市の市役所に展示して，感想をいただくという展開で行ったこともあったが，校内で行うことで，作品に対する反応をより多く生徒に届けられた。職員室でデザインについて生徒と教員で話題にしている場面もあり，効果は大きかったように感じる。

(2) カップラーメンデザインNo.１決定戦

～身近なデザインとつなぐ～

マークデザインやユニバーサルデザインの題材と関連させて，カップラーメンのデザインについて校内企画展を行った。魅力を感じるデザインについて一点選び，理由とともに投票するというものである。まず，美術室前に醤油味限定で10種類のカップラーメンを展示すると，生徒はとても興味をもった様子で眺めていた。

◆これまでの学びの活用

魅力を感じるものとして選んだ理由を見ると，「これは大盛りを食べたい男性をターゲットにしていると思うので…」「醤油味のイメージカラーである赤を目立たせるために，周りの色を暗めにして…」「カップの形状が四角くなっていて持ちやすさが…」など，伝える対象や色彩の構成，持ちやすさなど，多様な視点で鑑賞を行っていた。それぞれが選んだ理由を授業で紹介することで，新しい発見につなげることができた。

◆企業の方からのメッセージ

得票数が一番多かった商品を販売している企業の製作部に，生徒の鑑賞文を送りコメントをいただいた。「色彩や形の工夫」「完成までのプロセス」などを教えていただき，生徒も実際の製作現場の声に触れることで，デザインの向こう側で実際に製作している存在を実感できたのではないかと考える。

（3）校内企画展　～美術作品とつなぐ～

授業の中で作品の鑑賞を行うと，生徒が強い興味を示す時がある。風景画の題材で紹介した印象派の色鮮やかな作品，郷土の作家萬鉄五郎の強烈な色彩の作品などである。生徒の関心に応じて，授業に関連する作品

を校内企画展の形で掲示し，鑑賞の場面を設け表現との関連を図った。リアリティのある鑑賞体験が「わくわく感」につながるのではないかと考え，ポスターやチラシ，作品キャプションなど実際の展覧会になるべく近い形を目指して開催した。休み時間等に鑑賞して感じたことを授業で共有することで，自然な流れで鑑賞と表現のつながりを生むことができた。

（4）生徒とつくる校内掲示

～生活の中の美術とつなぐ～

登下校の道，近くのお店の外観，文房具など，様々な写真を校内に掲示した。写真には，授業でも活用している色彩，形，構成などの９つの造形的な視点を示す印（虫眼鏡）を添え，意識的に見つめることができるように工夫している。

◆みんなで作りあげる掲示

教師だけでなく，生徒が新たに発見した生活の中の美術も積極的に掲示し，共につくりあげている掲示を目指している。登下校途中の気に入った景色を生徒が教えてくれたり，「今この空の様子撮影してください」などと見つけてくれたりもする。授業の中で取り上げると，どんな造形的な視点で，どんな発見をしたのか，主体的に見つけようとする生徒の姿が見られた。

３　成果と課題

（1）成果

○生徒，教員，保護者などから，作品に対しての実際のコメントをもらうことは，生徒の達成感や次への意欲を生み出すために非常に有効だった。

○生徒の興味に基づいた作品を掲示したり，生徒の発見したものを掲示したりするなど，教師からの一方通行にならない掲示は生徒の意欲を引き出すために効果的だった。

（2）課題

●鑑賞した内容を授業の中で取り扱う場面をさらに増やすことで，表現と鑑賞のつながりをより強めたい。

●生徒とつくる掲示に関しては，まだまだ一部の生徒が見つけたものについての掲示なので，もっと多くの生徒の発見を生かして，生徒がより生活の中の美術を実感することにつなげたい。

2年 彫刻

抽象彫刻に挑戦！～パブリックアートの制作～

発表者　岩手県盛岡市立城西中学校　教　諭　佐藤　陽
助言者　岩手県盛岡市立米内中学校　副校長　山本勝彦

１　題材について

本題材は，自分なりのイメージや感情を抽象化した立体で表現する題材である。また，制作テーマをパブリックアートとし，社会に対する思いや地域の良さを形や色彩を工夫しながら自分なりに表現していく。パブリックアートに抽象表現を組み合わせることで，地域の良さや社会問題に対する自分なりの印象が表現に加わり，より主題をアピールできる制作につながると考えた。

町や地域に活気や潤いをもたらすパブリックアートは身近な地域にも存在しているが，それは誰がデザインし，どんな目的で設置されているかなど，生徒はこれまであまり気に留めることがなかったようである。しかし，盛岡駅西口にあるパブリックアートは，地域の小中学生が構想して制作されたものであり，盛岡を流れる北上川をこれからも守っていく，という願いが込められている。また，その美しい川の姿が抽象化して表現されている。本題材ではこの作品をきっかけとして，自分なりの表現が社会とつながることや抽象表現のよさについて制作を通して感じ取らせたいと思い設定した。

２　題材の目標

・抽象表現とパブリックアートの要素や働きを捉える造形的な視点を理解するとともに，表現方法を創意工夫して創造的に表す。　【知識及び技能】
・単純化や省略，強調といった造形的な要素を考え，盛岡のよさや社会問題をもとに主題を生み出し豊かに構想を練るとともに，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める。
【思考力，判断力，表現力等】
・美術の創造活動の喜びを味わい，抽象表現や美術と地域との関わりに関心をもち，主体的に創意工夫して作品を制作したり，鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。　【学びに向かう力，人間性等】

３　学習計画（１２時間）

(1) ガイダンスⅠ ----------（1時間）
・地域のパブリックアートの鑑賞
・海外のパブリックアートの鑑賞
(2) ガイダンスⅡ ----------（1時間）
・抽象表現の鑑賞
・抽象表現の練習
(3) アイデアスケッチをする ----------（1時間）
(4) 制作をする ----------（8時間）
(5) 鑑賞，まとめ ----------（1時間）

４　授業の概要

本題材は２０１９年度から行い始め，今年度で3回目の実施である。２０１９年度は「パブリックアートの制作」という題材名で盛岡の魅力や社会問題に対する思いをもとにした制作と設定し，抽象表現の要素は含めないで実施した。その結果，盛岡冷麺や岩手山といった盛岡の特徴をただ具象的に表現するだけに留まってしまい，パブリックアートの意義や魅力を構想の中で十分に意識させられなかった。そこで抽象表現と組み合わせることで，自分なりの形や色彩の工夫が加わり，よりイメージを広げた制作につながると考え，翌年から抽象表現を題材名に加えて実施した。

１時間目では盛岡駅西口のパブリックアートに触れ，美術と地域のつながりに対する関心を高めていく。身近にあり普段から何気なく目にしている作品に込め

られていた思い，そしてそれが自分たちと同じ年代の生徒たちが作り出した，ということを知ることでパブリックアートに対する関心を高めた。また海外のパブリックアートの事例を紹介し，社会に対して思いを発信していく上での注意すべき点を考えさせる。そのためにニューヨークのウォール街に並んで設置された2つの作品それぞれの意味と，並んで設置されたことで生まれてしまった問題について取り上げた。SNS 等で誰でも簡単に情報を社会に発信することができる現代において，その意味についても触れた。

2時間目では抽象表現について理解させていく。自分なりのイメージや感情を表現できるようにするため，例をもとに形や色彩に注目させながら考えさせていった。例の１つとして「ブーバ・キキ効果」を活用し，言葉の響きから自分なりに形をイメージすることから始めた。そして１年生で学習した色彩の特徴について振り返りながら色のイメージ，最後に目に見えない感情「ドキドキ」を自分なりに形や色彩を工夫しながら平面で表現させた。

2つのガイダンスをもとに3時間目からアイディアスケッチを行わせて制作活動を始めさせた。その際，ルールとして「①地域のよさや社会に対する思いを表現すること」「②抽象表現を取り入れること」「設置場所を学校・公園・盛岡駅東口・盛岡駅西口から１つ想定すること」と設定した。

①については地域だけでなく社会全体にも目を向けさせることでより多様な発想を引き出せると考えた。②については抽象だけで表現をするのが難しい生徒もいると考え，具象と組み合わせてもよいと補足した。③については設置場所を想定することで，自分の思いをより伝えることができると思い設定した。

授業を進めるにあたって，アイディアスケッチ等をグループもしくは全体で交流する場を設け，より考えを深められるようにした。授業の終わりには振り返りシートを記入させた。その日の授業で学んだことや制作で意識したこと，次の制作で取り組みたい部分などを記録することで，次の時間とのつながりを意識させて授業に取り組ませた。鑑賞を行う際にはラミネートで作った台座を用いてジオラマ風に展示し，実際に街に設置された情景を想像できるよう工夫した。授業以外にも文化祭や保護者面談の時に校内に展示し，本物のパブリックアートと同じように様々な人に見てもらえるようにした。

5　成果と課題

○抽象表現を学ぶことを通して，多くの生徒が自分なりの思いや感覚を表現につなげることの面白さや大切さに気付くことができた。また，他の人の作品を鑑賞することで様々な表現に触れ，より感性を広げたり深めたりすることができた。

○パブリックアートについて学ぶことで，美術と地域社会とのつながりを理解させることができた。

○構想の段階で自分なりの表現と社会とのつながりの両立を目指してアイディアスケッチに取り組む生徒が増えていった。

○場所の設定，ラミネートによるジオラマ作成によって，作品と設置場所の関係性に見通しをもたせながらアイディアスケッチに取り組ませることができた。

●地域のよさや盛岡の特色をテーマとする生徒が少なかった。導入の中で，盛岡の名産品や観光地といった魅力について触れることが必要と感じた。

●抽象表現やパブリックアートと新しく学ぶ内容が多いためか，構想の段階で難しさを感じる生徒もいた。抽象表現を別題材でしっかり学び，その後パブリックアートの題材で既習した抽象を活用する，といった題材計画も今後は視野に入れていきたい。

様々な人種，多様な文化をテーマにした作品

環境問題をテーマにした作品

3年 鑑賞

感じるままに素直に ～小林覚さんの世界にせまる～

発表者　岩手県盛岡市立見前南中学校　教　諭　北條優美子
助言者　岩手県盛岡市立米内中学校　副校長　山 本 勝 彦

1　題材について

岩手県花巻市に障がい者のアート作品を展示する「るんびにぃ美術館」がある。美術館の２階にはアトリエが併設されており，知的障がいをもつアーティスト達が制作に励む様子を見学することができる。何にもとらわれずに，心の赴くまま自由に表現する彼らの作品を目の前にすると，我々がいかに普段何かにとらわれているかに気づかされる。また，言葉ではうまく気持ちを伝えられない彼らが，言葉以外の方法で楽しみながら表現している様子を見ると，アートは生きる喜びそのものであり，作品は人と人とをつなぐものであることに改めて気付かされる。

るんびにぃ美術館外観

小林 覚 氏

るんびにぃ美術館では，障がい者アーティスト小林覚氏とアートディレクター板垣崇志氏の出前授業「であい授業」を県内外の学校で行ってきた。本題材はこの「であい授業」をベースとするものであるが，作者本人が講師をするのではなく，授業者がファシリテーターとなって対話型鑑賞を行う形で構成した。教師から与える作品の情報は必要最小限に留め，作品や作者の制作動画を見ながら，感じたことや考えたことを交流させ，題材の目標に迫った。また，問いを精選し，生徒が感性や価値観を広げられるような終末にするよう努めた。

本校では一昨年度特別支援学級が開設されたが，支援学級と交流学級との関わりが薄く，生徒の障がいに対する理解も深まっていない。この実態をふまえ，本題材では障がいをもつがゆえの，自由で突き抜けた表現に触れ，その発想の多様性や興味深さを目の当たりにすることで，表現することは生きる喜びであり，他者理解にもつながることに気づかせたい。授業者自身がアトリエを訪れ，アーティストと交流する中で感じたことを，授業の中で生徒に気づかせ，各々の価値観で思考を深めることによって，多様な障がい者アートの世界と生徒をつなぎ，感性を広げることをねらいとした。

本授業で借用した作品　『Tomorrow』　小林 覚

2　題材の目標

・美術作品の造形的なよさや美しさ，表現の意図と創造的な工夫，作者の感性や生き方に目を向け，独創的・総合的に考えるとともに，美術に対する見方や感じ方，価値観を深める。
【思考力，判断力，表現力等】

・美術作品に関心をもち，他と意見を交流しながら，自分なりの視点で主体的に鑑賞活動に取り組もうとする。　【学びに向かう力，人間性等】

3　学習計画（1時間）

①10分アートで文字を自由に描く--（前時に10分間）
②本時鑑賞----------（1時間）

1時間枠の鑑賞授業として設定したが，前時に「10分アート」として，はがきサイズの画用紙にペンや色鉛筆で，文字を使って自由に描くという課題を与えた。好きな文字をレタリングしたり，絵文字のようなものを描き出したりする生徒がほとんどであったが，逆に「自由に」という言葉に阻まれて，全く筆が動かず白紙のまま時間が過ぎた生徒も数人いた。自由に描くことの難しさや，「自由に」と言われたとたんに不自由を感じる矛盾を，事前に感じさせることをねらいとした。

4　授業の概要

授業の導入ではまず実物作品をよく見て，描かれてある色や形を根拠に，作者の思いや感じ方を想像させ交流した。その際に生徒に与えた情報はタイトルと作者名のみである。作品と距離がある生徒もいるので，作品の写真を配布した。

展開では障がいをもつアーティストであることは伝えないまま，まず制作動画を流し率直に感じたことを交流させた。その後，生徒は既に気づいていたが，障がいについて補足，確認し，作者にとっての「描くこと」の意味や，作者が自由な発想で自分らしい絵を描けるのはなぜなのかを問い，本時の目標に迫るような流れで思考を深めさせた。

5　成果と課題

○成果…思い描いたことを何にもとらわれず，自由に表現することは難しいが，それができる作者は素晴らしく，その発想や表現は障がいがあるからこそのものである。そういう視点で考えると障がいはもはや弱みではなく，強みであると感じた生徒が多数いたことが発言や学習シートから見てとれた。また，作者にとって描くことは生きる喜びであり，人とのコミュニケーションツールであると発言した生徒もおり，表現行為や作品が人をつなぐ役割になるということに気付いた生徒も数人いた。今回の授業で価値観が変わったと端的に記した生徒もおり，学習目標は達成できたと考える。

●課題…対話型鑑賞は本来，作品を前に生徒同士が意見交流をしながら思考を深めていくものであるが，本時は人数やスペース，感染症対策からそのスタイルで実施できなかった。教師からの発問や問題提起を最小限におさえ，生徒自身の疑問や驚きを思考や意見交流の起点として，もっと生徒同士の交流を授業の中心に据えていくためには，授業形態をさらに吟味し，大きく変えていく必要があると実感した。

3年 表現・鑑賞

ミニチュアの世界で表現する「思い出のワンシーン」

発表者　岩手県大槌町立大槌学園　教　諭　奥村理奈
助言者　岩手県県南教育事務所　指導主事　雪ノ浦達雄

1　題材について

本題材は，ミニチュア写真家である田中達也の見立ての世界を味わい，そのミニチュアの世界の中で自分自身の中学校３年間の思い出の場面を表現するという表現と鑑賞を関連付けた題材である。ミニチュア写真家である田中達也の作品は，日常には面白いものがたくさんあふれているということに気付かせてくれる。普段とは視点を変えることで生まれる新たな世界や，見立ての面白さを生徒たちにも味わわせたいと考え，題材を設定した。自分なりに見つけたよさや面白さ，感動を自分の作品づくりや鑑賞活動にもつなげることができれば，表現活動の幅も広がり，鑑賞と表現それぞれを深めることができると考えた。特に中学3年生には，自分の身の周りだけではなく，他者や社会（地域）との関わりを意識したり，これまでの経験を関連付けたりして，主題を生み出せるようにしたい。

2　題材の目標

・形や色彩などの性質や，それらが感情にもたらす効果，造形的な特徴などから全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。
・素材の特徴や表現効果を理解し，意図に応じて工夫し創造的に表す。　【知識及び技能】
・お互いの思い出の場面やその時の気持ちなどを共有する中で，自分自身の内面と重ねて主題を生み出し，感じ取ったことや考えたことを創造的に工夫し，豊に表現する構想を練る。
・見立てによるミニチュアの世界の造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を深める。
【思考力，判断力，表現力等】
・自然物や人工物を別のものに見立て新たな世界を表現することの喜びを味わい，素材がもつ造形的な美しさやおもしろさなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に主体的に取り組もうとする。
【学びに向かう力，人間性等】

3　学習計画（9時間）

・田中達也の作品鑑賞 ----------（1時間）
・発想・構想----------（2時間）
・人形制作・撮影----------（5時間）
・発表と鑑賞 ----------（1時間）

4　授業の概要

（1）田中達也の見立ての世界を知る
田中達也の「MINIATURE CALENDAR」（ミニチュアカレンダー）を鑑賞し，見立ての世界を味わう。
（2）テーマを決定する
3年間の活動を振り返り，お互いの思い出を自由に語り合いながらミニチュアの世界で表すテーマを決める。スケッチブックにミニチュア人形の構想や見立てのアイディアなどを描き，構想を練る。
（3）紙粘土で人形を作る

針金や紙を芯材にし，周りに紙粘土を少しずつ貼り付けながら人形を形成し，着彩して仕上げる。

（4）場所や素材と組み合わせて，撮影をする

テーマに沿った場所や物を用意し，作った人形と合わせてミニチュアの世界を表現し，撮影する。

（5）ミニチュアの世界を発表する

グループごとに，完成したミニチュアの世界の写真を，モニターに映して発表する。発表を聞き，自分の感じたことや作品についての考えを書いたり述べたりする。

5　成果と課題

○田中達也の作品を鑑賞することにより，見立ての面白さを味わわせることができた。

○グループで思い出の場面を話し合わせたり，人形の構想や見立てのアイディアスケッチを共有させたりするなど，言語活動の充実を図ることで豊かな構想を生み出させることにつながった。

○撮影のアングルや人形，材料等の配置の工夫を話し合わせることで，試行錯誤しながらより良い構成を考えて撮影させることができた。

○鑑賞で得たことを生かして表現につなげる活動ができた。また，表現を通して見立ての世界を深く感じ取らせることができた。

●使用できる材料が増えれば，表現の幅も広がると感じた。

2年 デザイン

「命を守るハザードマップの制作」

発表者　岩手大学教育学部附属中学校　教諭　佐々木倫生
助言者　岩手県盛岡市立米内中学校　副校長　山本勝彦

1　題材について

盛岡市は，過去において川の増水や台風による影響を受けてきた地域である。事前の生徒アンケートでは，「自分の住む場所が実は5mの浸水想定区域ということを知らなかった」などという意見が多く，自分の住む家がどの程度浸水する地域であるか認識不足が現状であった。「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」（文部科学省）の提言では「自ら危険を予測し，回避する能力を高める防災教育」を推進している。そこで，岩手の復興教育プログラム「いきる」「かかわる」「そなえる」3つの教育的価値を鑑みる中で，ハザードマップを生かすことにした。さらにマーク，ピクトグラムの制作を通じて命を大切にする姿勢や地域との関わりを深めていくためにこの題材を設定した。

2　題材の目標

・ マークやピクトグラムの造形的な特徴などを基に，全体のイメージで捉えることを理解する。意図に応じて表現方法を創意工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって創造的に表す。

【知識及び技能】

・ 住む地域の安全を考えるため，伝える相手や施設，場所などのイメージから主題を生み出し，分かりやすさと美しさなどとの調和，統一感などを総合的に考え，表現の構想を練る。

【思考力，判断力，表現力等】

・ 美術の創造活動の喜びを味わい主体的にデザイン及び鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

【学びに向かう力，人間性等】

3　学習計画（7時間）

・ 課題の把握 ----------（1時間）
・ 発想，構想----------（2時間）
・ デザイン制作 ---------（2時間）
・ 鑑賞とまとめ ---------（2時間）

4　授業の概要

・ マーク，ピクトグラムを学習するために（JIS）ピクトグラムの原則に従い，視覚的に分かりやすい作品にはどのような要素が含まれるかを考察した。

・ 次にハザードマップ上に合うマーク，ピクトグラムを4人グループでハザードマップの読み取りを行い，自分自身が住む地域の危険個所を捉える学習を行った。

盛岡市洪水ハザードマップ

・ 絵画とデザインの区別を付けるためにマーク，ピクトグラムで描く活動を行った。そこから『禁止』『注意』『指示』などの違いが分かるようにアイディアスケッチを生徒同士で鑑賞し合い，主題を生み出すように構想を深めながらデザインを練った。

・ ICTを活用したマーク，ピクトグラムの制作では，スケッチブックでの作品を参考に，単純化，省略を行いながらアプリ「スケッチブック」を活用し，直線，曲線ラインで描き，塗りつぶしの機能を生かしながらデザインを完成させた。

・ 授業のまとめでは，プレゼンテーションを行い，自分の考えたマーク，ピクトグラムをハザードマップに載せ，自分の住む場所の浸水想定区域が分かるように発表を行った。

5　成果と課題

○今回の学習でハザードマップを見ることで住んでいる場所，地域に対する防災の意識が高まった。

○ピクトグラムの制作を通じて，人を助けることができるという考えをもつ生徒が増えた。

○ICTを用いながらピクトグラムを分かりやすく伝えるための工夫や伝達の手段の方法を様々な角度から考えさせることができた。

●マーク，ピクトグラムの制作で文字に頼る生徒に対してデザインのみでいかに伝えるかさらに検討を重ねたい。

2年 工芸

「ねぶたライトをつくろう」

発表者　青森県青森市立筒井中学校　教　諭　一戸万聖

1　題材について

青森ねぶた祭は，国の重要無形民俗文化財に指定されている。青森ねぶた保存伝承条例では，第四条２ー「教育の場における青森ねぶたの保存及び伝承についての教育」を推進している。祭りで運行される人形灯籠は，かつては竹の骨組みに和紙を貼ってろうそくの灯りをともしていたが，現在では針金で骨組みを組み，灯りは電球を使用している。骨組みに針金が使われるようになり，細かい造形も可能になった。最近では，このねぶたの技法を活用したインテリアもつくられている。

この授業では，ねぶたと同様の材料や技法でねぶたづくりを体感し，実際のねぶたの制作の難しさと楽しさを感じさせたい。

2　題材の目標

・形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解する。

・針金や紙，光の性質や加工法を身に付け，意図に応じて技法を工夫して表す。　【知識及び技能】

・自分の夢や目標などの心の世界などを基に主題を生み出し，単純な形や線，色彩の組合せなどを考え，心豊かに表現するための構想を練る。

・ねぶた制作の基本的な技法を体験することによって，受け継がれてきたねぶたの伝統や美しさを感じ取り愛着を深める。　【思考力，判断力，表現力等】

・創造活動の喜びや楽しさを味わい，意図に応じて技法を工夫して表す学習活動に取り組もうとする。

【学びに向かう力，人間性等】

3　学習計画（12 時間）

・テーマを考え，それを表現するための形，主調色を決める ---------- 1時間

・針金を加工して骨組みをつくる ---------- 4時間

・紙を貼る ---------- 4時間

・書き割り，ろうがき，彩色 ---------- 2時間

・鑑賞とまとめ ---------- 1時間

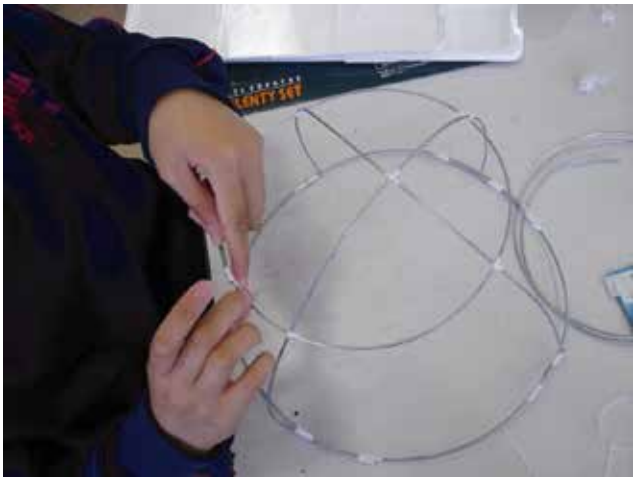
4　授業の概要

・テーマを決める

自分の生活目標や夢などをテーマに設定し，それを簡単な形と色で表現させる。

・ねぶたの制作技法

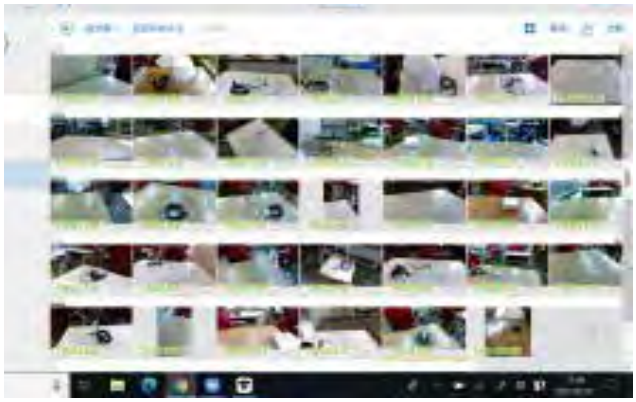
骨組み，紙貼り，（電気配線），書き割り，色付けを行い，実物のねぶた制作の基本作業を体験させる。いくつかの単純な形からテーマを表現しやすい形を選択させた。

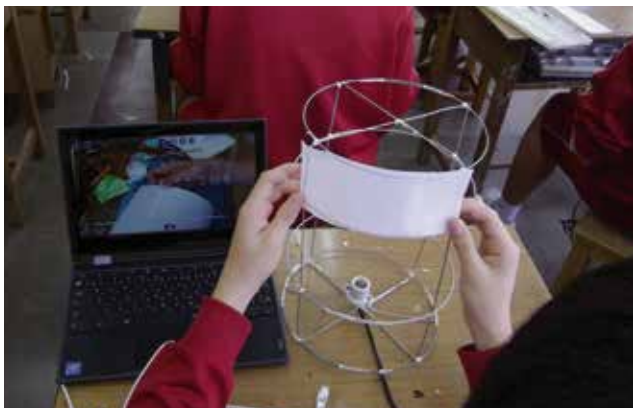


・ICT の活用

教育用ソフト（ロイロノート）上に針金の接合方法，紙の貼り方，彩色（ぼかし）の技法の動画を置き，必要なときに個人用タブレットで確認しながら制作

を進められるようにした。また，授業終了時に自分の作品の写真を撮り提出させるとともに，アンケート形式の振り返りシートに入力させた。





5　成果と課題

○骨組みの形を単純なものに限定することで，その中から自分のイメージに近いものを選択して表現することができた。

○言葉を形や色，線で表現することに抵抗がなくなった。

○単純な形や線，色からイメージを膨らませることができるようになった。

○パソコンで，振り返りをまとめて閲覧できるので，細かい生徒のつまずきに対応できた。

●ペンチの使用に慣れていないので針金の加工が思うようにできない生徒もいた。

3年 鑑賞

ディベートによる鑑賞－芸術の価値とは何か

発表者　宮城県大崎市立古川中学校　教　諭　菅原由美子

1　題材について

オークションのニュースを糸口に，ディベートの手法を使って一つのテーマで，肯定側／否定側の二つの立場で話し合う。与えられた立場で必要な情報を収集し，根拠を明確にして主張することで，作品を分析的に見たり芸術家を多面的に捉えたりすることができる。ディベートを経ることによって多様な見方や考え方に触れ，芸術の価値や社会の中での芸術の役割について考えを深めることができる。

2　題材の目標

・作品を成立させている形や色彩，筆触などの表現方法について着目し，作風などを捉える。
【知識及び技能】

・作家の制作スタイルの変容を多角的に捉え，どんな心情や意図で制作を追求してきたのかを考え鑑賞し，話し合うことによって，芸術の価値や役割について思いを巡らす。　【思考力，判断力，表現力等】

・作品を分析的に見つめ，作家の心情や意図について自分の考えをもって話し合うことに関心をもち，意欲的に鑑賞に取り組もうとする。
【学びに向かう力，人間性等】

3　学習計画（4時間）

①テーマ「ムンクの『叫び』は96億円の価値がある／96億円の価値がない」を知る。
②ディベートの目的と方法について知る。
③抽選で主張する立場を決める。
④各自ムンクの作品分析をする。
⑤班で作品の背景や作家ムンクとしての生き方について調べる。
⑥他作品や他作家との比較など資料調査をする。
⑦調査を基に個人で立論の内容を考える。
⑧班で話し合い立論の内容をシートにまとめる。
⑨ディベートを行う。
⑩ディベートの内容を振り返る。
⑪立場を離れて自分の考えをまとめる。

4　授業の概要

個人の考えを出し合って班としての立論を作成していくが，主張の根拠をどこに求めるのかが大切であり，作品や多数の文献をもとにして具体的に提示させる。ネット検索は授業では使用せず，必要に応じて家庭で行わせた。タイマーを使用して議論に緊張感をもたせることで，説得力のある内容や表現方法を工夫することができ，活発なディベートができる。あえて審判を設けず，ディベートの終結後に自分が主張した立場を離れて個人の考えをまとめることで考えを深める。「芸術とは何か」という授業の根幹に関わるこのまとめは，美術通信の形をとり，紙面で共有することにした。

5　成果と課題

日頃全体の場で発言できない生徒が，班の助けによって積極的に主張することができる。多面多角的な主張を聞いて，個人の考えが柔軟に変容していくことが授業の醍醐味である。感染対策を十分にしながら実施することが今後の課題である。

資　　料

東北大会年表

回	年度	開催地	大会主題・講演・講師等
1	S30 1955	福島県 白河市	創造的表現における教材の研究 講演：美術教育の中心的問題／現代造形研究所長　井出則雄
2	31 1956	秋田県 能代市	図工における創造性と技術指導の関係について 講演：中谷健次
3	32 1957	岩手県 盛岡市	創造的な人間教育をめざす新しい図画工作・美術工芸の具体的指導はどうあるべきか
4	33 1958	山形県	（開会寸前に勤評闘争にぶつかり中止）
5	34 1959	青森県 弘前市	これからの造形教育の問題点をいかに把握し，具体的にどのように解決したらよいか。－図工科・美術科・新学習指導要領の問題点に現場では，どのように対処したらよいか－ 教材研究：中央講師による実技講習会
	35 1960		（前年度理事会において来年１回休むことに決定）
6	36 1961	宮城県 仙台市	教育課程改訂によるいろいろな問題を話し合おう 講師：林　健造・豊田　敦 講演：新しいデザインと美しいデザイン／剣持　仁
7	37 1962	福島県 会津若松市	生活に自信と喜びをもたせる造形活動
8	38 1963	秋田県 湯沢市	豊かな色彩感覚を育て，生活に自信と喜びを持たせる造形活動　講師：川村浩章 講演：ヨーロッパの美術教育と日本の現状／横浜国立大学　小関利雄
9	39 1964	山形県 寒河江市	造形活動を通して人間性を高めよう 講演：人間形成と造形教育／熊本高工
10	40 1965	青森県 むつ市	郷土を見つめた造形活動はどうあればよいか 教材実技研究　中央講師による指導 講演：現代ヒューマニズムにおける美術教育の位置づけ／お茶の水女子大学　周郷　博
11	41 1966	岩手県 盛岡市	（第 19 回全国大会と併催） たくましい創造力を育てる造形教育の実践 講演：平泉文化の特質／岩手大学　森嘉兵衛
12	42 1967	宮城県 古川市	造形教育の指導内容を検討しよう ー東北の指導・生徒の造形活動をみつめてー 講演：教育課程改訂と造形教育の本質／村内哲二
13	43 1968	福島県 郡山市	造形教育で何を教え，何を育てるか，授業実践を通してたしかめよう 講演：現代教育における創造性について／東洋大学文学部教授　恩田　彰
14	44 1969	山形県 酒田市	創造的表現とは何かをたしかめよう 講演：人間の創造性／映画監督　羽仁　進
15	45 1970	秋田県 秋田市	（第 23 回全国大会と併催） ほんとうの美しさをつくりだす授業をもとめて ーこれからの造形教育の使命と課題の追求ー 講演：日本の形の伝統／建築評論家　伊藤ていじ
16	46 1971	青森県 岩崎村	今後の造形教育はどうあるべきか 講演：これからの美術教育への提言／東京教育大学教授　松原郁二
17	47 1972	岩手県 花巻市	表現する喜びを高める指導を求めて ー主体的に表現活動をさせる指導を指向してー 講演：造形教育への期待と課題／文部省教科調査官　松本　巌
18	48 1973	宮城県 仙台市	豊かな人間性を育てる造形活動をめざして 講演：造形教育のことば／東京十文字女子大学教授　林　健造
19	S49 1974	福島県 会津若松市	生命感あふれた表現力を育てる造形教育 講演：発想を豊かにする造形教育／横浜国立大学　眞鍋一男
20	50 1975	山形県 山形市	（第 28 回全国大会と併催） ゆたかな心情とたくましい創造力を育てる造形教育 講演：現代の美術／美術評論家 朝日新聞論説委員 小川正隆
21	51 1976	秋田県 秋田市	人間性と創造性豊かな子どもを育てる授業を求めて 講演：求められる美術教育／美術評論家　独立美術教会員　西田藤次郎
22	52 1977	青森県 弘前市	人間性を豊かにする表現活動を求めて 講演：人間性を豊かにする造形教育／東京芸術大学教授　桑原　実
23	53 1978	岩手県 水沢市	個性豊かな表現を育てる造形教育 ー感動を大切にする心象表現ー
24	54 1979	宮城県 仙台市	豊かな創造力を育てる造形活動を求めて 講演：発達を重視する造形教育のあり方／東京十文字女子短期大学教授　林　健造
25	55 1980	福島県 伊達郡 桑折町・保原町	創造の喜びを味わわせる造形教育を求めて 講演：体性感覚を基本にした造形表現／福島大学教育学部教授　大橋皓也 講演：子どもと造形／福島大学教育学部助教授　白沢 菊夫
26	56 1981	山形県 鶴岡市	豊かな人間性を育てる造形教育 講演：子どもの創造性と美術の本質／ブリジストン美術館長　美術評論家　嘉門安雄
27	57 1982	秋田県 本庄市	豊かさと確かさを育てる造形活動を求めて 講演：これからの造形教育を考える／文部省教科調査官　相田盛二
28	58 1983	青森県 十和田市	風土に根ざした子供を育てる美術教育の実践をめざして 講演：ひとりひとりをいかす授業の展開／兵庫県教育大学教授　造形センター常任委員　西光寺享
29	59	岩手県	児童・生徒の創意を引き出し，表現の喜びを味わわせる

回	年度	開催地	大会主題と講師
	1984	宮古市	**造形教育** 講演：造形教育三系論，造形教育の見通しについて／東京十文字女子短期大学教授　林　健造
30	60 1985	宮城県 仙台市	**豊かな想像力を育てる造形教育**
31	61 1986	福島県 会津高田町	**豊かな人間性を育てる造形教育** 講演：造形教育の今日的課題－個に応じた基礎基本－／上越教育大学教授　大橋皓也
32	62 1987	山形県 山形市	**豊かな創造性を育てる造形教育** 講演：21 世紀に期待される造形教育／文部省視学官　新川昭一
33	63 1988	秋田県 秋田市	**君はにじ色の馬をみたか－喜んで表現する心を求めて－** 講演：アジアの美と祈り／武蔵野美術大学教授　前田常作
34	H1 1989	青森県 青森市	**子供の心を創るよろこびをひきおこす造形教育** 講演：風土と表現－棟方志功と太宰治を語る－／上智大学教授　相馬正一
35	2 1990	岩手県 北上市	**感動・そして造形的な創造活動の探求** 講演：よろこんで表現活動する意欲的な子供の育成／作家　戸川幸夫
36	3 1991	宮城県 仙台市	**豊かな心・生き生きと表現する姿を求めて** **－感じる…味わう…伸ばす…生かす…－** 講演：彫刻と私／彫刻家　佐藤忠良
37	4 1992	福島県 伊達町	**子供の夢や願いを育む創造活動のあり方を求めて** 講演：日本文化の特質と造形教育／上越教育大学教授　大橋皓也
38	5 1993	山形県 酒田市	**風土に根ざし，豊かな心を育てる造形教育** **－おもいとよろこびを見つめて－** 講演：美を守る…美の享受…／東北芸術工科大学教授　黒江光彦
39	6 1994	秋田県 男鹿市	**一人一人の心の軌跡の形象化をめざして－風土の素材を生かし，造形思想を深める指導－** 講演：創造のかなたに見えてきたもの－童具創りの中で感じたこと，考えたこと－／童具デザイナー　和久洋三
40	7 1995	青森県 弘前市	**創造のよろこび，ふれあう感性，豊かな心** **－子供一人ひとりの思いを生かす造形を求めて－** 講演：私の歩んだ道／東京芸術大学名誉教授　工藤甲人
41	8 1996	岩手県 盛岡市	**一人ひとりの感性を大切にし，よさや可能性を育む造形教育** 講演：感性と造形教育／十文字短期大学付属幼稚園長　林　健造
42	9 1997	宮城県 白石市	**ふくらむ思い，広がる世界** **－創造の楽しさ・喜びを味わう造形活動を求めて－** 講演：21 世紀の美術教育の役割／文部省初等・中等教育局視学官　遠藤友麗
43	10 1998	福島県 郡山市	**子どものこころが，生きる造形活動－しなやかな感性・美術教育の現在－** 講演：図画工作・美術教育の現在／文部省初等・中等教育局小学校課教科調査官　板良敷敏
44	11 1999	山形県 天童市	**心のひびき　わきでる思い　感性を育み思いを豊かに表現する造形教育～感じたことを大切にしひとりひとりが輝く活動を～**
45	12 2000	秋田県 山本郡藤里町 (世界遺産白神山地)	講演：ものづくりと感性／オークヴィレッジ代表　稲本正 **風を問き　気を感じて　光を浴びて～豊かな感性を培う造形を求めて～** 講演：白神山地とわたし／白神山地のぶな原生林を守る会理事長　鎌田孝一
46	13 2001	青森県 八戸市	**感性・交流・感動** 講演：美　創造へ　美しく生きるために／東京芸術大学美術学部教授　画家　絹谷幸二
47	14 2002	岩手県 宮古市	**生きる力と創造する喜び～感性の輝きと自分らしさを求めて～** 講演：21 世紀の教育の展望／文部科学省初等中等教育局視学官　遠藤友麗
48	15 2003	宮城県 仙台市	**杜の都発「自分らしさが輝く造形活動」** シンポジウム：造形教育のひろがりを求めて～美術館やメディアとの連携の可能性～／シンポジスト　宮城県美術館　齋　正弘・メディアテーク　佐藤　泰・宮城教育大学　村上タカシ
49	16 2004	福島県 いわき市	**ほんとうの空のもと，ほんとうに出合う瞬間** **－自分いろの造形活動を求めて－** 講演：ロダンと相田みつを／相田みつを美術館長　相田一人
50	17 2005	山形県 鶴岡市	**美しいものに感動するしなやかな感性を育み未来につながる造形教育～幼・保・小・中・高それぞれの造形教育における役割を考える～** 講演：幽玄の美／黒川能下座太夫 20 世（座長）　上野由部
51	18 2006	秋田県 大仙市	**いのちの輝き夢遊ぶとき** **～思い豊かで楽しくてたまらない造形活動を求めて～** 講演：元気の出る造形教育の展開／千葉大学教育学部教授　藤澤英昭
52	19 2007	青森県 青森市	**きらめく感性ゆたかな創造－青い森からのメッセージ－** 講演：これからの図画工作・美術で重視すべきこと～次期学習指導要領改訂の方向性をふまえて～／聖徳大学人文学部児童学科教授　遠藤友麗
53	20 2008	岩手県 盛岡市	**心をつなぎ明日に生きる造形教育～確かな力と豊かな感性～** 講演：新学習指導要領の要点と課題／文部科学省初等中等教育局教育課程科教科調査官　奥村高明
54	21	宮城県	**杜の都発「今，問いかける造形教育」**

回	年度	開催地	大会主題と講師
	2009	仙台市	シンポジウム：造形教育が育てるもの／文部科学省初等中等教育局教育課程科教科調査官　奥村高明・宮城県美術館　齋　正弘・仙台メディアテーク　小川直人
55	22 2010	福島県 福島市	つくる喜び，見る感動!!子どもの今と未来をつなぐ造形教育～連携を大切にしたこれからの造形教育を求めて～ 講演：魅力ある美術館づくりを目指して／財団法人諸橋近代美術館長　諸橋英二
56	23 2011	山形県 河北町	豊かな創造的活動をもとに，学びをつなげる造形教育 シンポジウム：わたし色の結晶の開花に向けて～今，造形教育ができること～／聖心好大学文学部教育学科教授　水島尚喜・東北雑工科大学教雑育センター教授　片桐隆嗣・コーディネーター　山形大学地域教育文化部准教授　齊藤　学
57	24 2012	秋田県 秋田市	生きる輝き，つくりだす喜び ～内面から湧き上がる造形活動を求めて～ 講演：直武･･百穂・狩野亨吉－秋田蘭画をめぐる知の共同体／学習院女子大学教授　今橋理子
58	25 2013	青森県 弘前市	ゆたかな感性　つくる喜び～生涯にわたり自己表現をしていく造形能力の育成をめざして～ 講師：青森県立美術館長　臙山ひばり
59	26 2014	岩手県 盛岡市	心をつなぎ，豊かな感性をひらく造形教育 ～かかわり合い　つくりだす喜びを大切にして～ 講演：つくりだす喜びと造形教育／文部科学省教科調査官　岡田京子
60	27 2015	福島県 郡山市	わくわく！できた！から始まる連続する表現のよろこびの創造～造形美術表現を通した自己肯定感の醸成～ 講演：小学校，中学校を通して図画工作，美術で育てたい力／文部科学省教科調査官　岡田京子・東良雅人
61	28 2016	宮城県 仙台市	（第69回全国大会と併催） よさや美しさ～つながりの中に生まれるものに向かって～ 講演：日本文化の継承～雄勝硯の復興に向けて／彫刻家　武藤順九
62	29 2017	山形県 酒田市	こどもの輝く未来につなぐ造形教育 ～自分の世界を広げ新たな高まりをめざして～ 講演：新学習指導要領とこれからの図画工作科，美術科／文部科学省教科調査官　岡田京子・東良雅人
63	30 2018	秋田県 秋田市	（第69回全国大会と併催） あきた発　新たな美を拓く ～わたしを問い，発信する造形活動～ 講演：あきたのくらしからみえる，あしたのびじゅつのはなし。／編集者（有限会社りす代表）　藤本智士・映像作家　井野英隆・シンガーソングライター　青谷明日香

回	年度	開催地	大会主題と講師
64	R1 2019	青森県 八戸市	深い学び　伝える喜び　つながる感動 ～”ひと・もの・こと”とのかかわりのなかで～ 講演：教育課程をデザインする／シーラカンス K&H 株式会社代表取締役　工藤和美・建築家　堀場　弘
	2 2020		（新型コロナウイルス感染症の感染拡大により１年延期を決定）
65	3 2021	岩手県 盛岡市	つなぐ思い　広がる感性 ～喜びを感じる造形活動をめざして～ 講演：つくりだす喜び」を礎にして～子どもが好きになる評価・図工美術が好きになる指導～／札幌大学女子短期大学部こども学科教授　阿部宏行

東北造形教育連盟規約

第1条　本団体は東北造形教育連盟と称し，事務局を会長在任県に置く

第2条　本連盟は東北六県の次の造形教育研究団体を以て組織する。

1. 造形教育連盟
2. 美術教育振興会
   これに類する研究団体総合
3. 幼稚園，保育園の研究団体
4. 小学校図工研究会
5. 中学校美術工芸研究会
6. 高等学校美術工芸研究大会

但し，組織構成の単位は，各県の事情にまかせるものとする。

第3条　本連盟は東北の造形教育の振興を図ることを目的とし，次の事業を行う。

1. 各県の情報交換(口頭あるいは印刷物)
2. 研究大会(第1回，各県輪番)
3. その他の本連盟の目的達成に必要な事項

第4条　本連盟に次の役員を置く。

1. 会長（1名）　研究大会当番県の理事より1名推薦する。
2. 副会長（2名）　研究大会当番県・前回研究大会当番県並びに次回研究大会当番県の理事より各1名ずつの推薦とする。
3. 理事（18名）　各県3名程度

第5条　本連盟運営のために各県は，負担金を拠出するものとする。

負担金は，年額10,000円とし，会長あて，届けるものとする。

第6条　本連盟に関する必要な事項は，理事会により決定し，理事会は必要により，会長が召集するものとする。

付　則

1.理事会あるいはその他の役職など本連盟関係の用務で出張する場合の費用は，本連盟の負担外とする。

2.大学の研究団体は,本連盟研究大会開催のつど参加できるものとし，参加する場合には経費の一部を負担するものとする。

本規約は昭和57年10月7日より実施する
令和元年7月31日一部改正
（令和元年8月2日より実施）

表彰規定

趣旨

東北における図工・美術教育の充実発展に貢献し，顕著な成果をあげた図工・美術教育関係者に対して，感謝状を贈呈しその功績をたたえることとする。

表彰の方法

（1）　被表彰者は，各県から推薦されたものについて理事会が審査し，東北造形教育連盟会長名で表彰するものとする。

（2）　表彰は原則として毎年開催される東北造形教育研究大会において行うものとする。ただし，被表彰者が死亡または転出等の場合はこの限りではない。

推薦及び審査の基準

東北各県の図工・美術教育関係者で，原則として次に掲げる項目のいずれかに該当するものであること。

（1）　長年にわたり図工・美術教育の充実発展につとめ功績顕著なもので，おおむね60歳以上であること。

（2）　全国造形教育研究大会/東北造形教育研究大会等各種研究会開催にあたり，特に指導的な役割を果たし功績顕著なものであること。

（3）　図工・美術教育の推薦の推進並びに研究拡充のため特に指導的役割を果たし功績顕著なものであること。

表彰の記録

被表彰者の名簿及び表彰内容は，毎年開催される大会要項に記載するものとする。

その他

その他の詳細については理事会で決める。

付記

この規定は平成3年4月1日から施行する。
令和元年7月31日一部改正
（令和元年8月2日より実施）

令和３年度第６５回東北造形教育研究大会岩手大会

感　謝　状　受　賞　者

青森県	福井万壽雄（ふくい ますお）	元 青森市立三内小学校 校長 青森県造形教育連盟会長，第 64 回東北造形教育大会青森大会大会長等，役員として長年に渡り本県の造形教育の充実発展に尽力した。
	上村綾子（うえむら あやこ）	元 八戸市立金浜小学校 校長 青森県造形教育連盟八戸支部長，第 64 回東北造形教育大会青森大会実行委員長等，役員として長年に渡り本県の造形教育の充実発展に尽力した。
	戸来忠雄（へらい ただお）	元 八戸市立白山台中学校 校長 青森県造形教育連盟副会長，第64回東北造形教育大会青森大会副実行委員長等，役員として長年に渡り本県の造形教育の充実発展に尽力した。
宮城県	永井一也（ながい かずや）	元 仙台市立南小泉小学校校長 宮城県連合小学校教育研究会図工部会長，宮城県造形教育連盟副会長等，役員として長年に渡り本県の造形教育の充実発展に尽力した。
山形県	渡邉　斉（わたなべ ひとし）	元 中山町立長崎小学校　校長 山形県造形教育連盟会長等，役員として長年に渡り本県の造形教育の充実発展に尽力した。
秋田県	永井孝久（ながい たかひさ）	元 大館市立有浦小学校　校長 平成29・30年度　秋田県造形教育研究会会長等，役員として長年に渡り本県の造形教育の充実発展に尽力した。
	木村　伸（きむら しん）	元 大館市立比内中学校 校長 令和1・2年度 秋田県造形教育研究会会長，平成30年度 第71回全国造研秋田大会実行委員長等，役員として長年に渡り本県の造形教育の充実発展に尽力した。

第58回岩手県造形教育研究大会盛岡大会

感謝状受賞者

高 橋 眞 司　前 盛岡市立松園小学校 校長
前 岩手県教育研究会図画工作部会 会長
第57回岩手県造形教育研究大会花巻大会 大会長

富 永 秀 寿　第57回岩手県造形教育研究大会花巻大会 実行委員長

岩手県造形教育藤原賞

	教員美術展受賞者		教育実践論文受賞者	
R02	**宍 戸 弘 徳**	大船渡第一中	**髙 橋 知 志**	崎山中
R03	令和4年1月に審査		**岡 山 里 沙**	巻堀小

岩手県小・中学校教育研究会図工・美術部会表彰規定

1　趣旨

岩手県における図工・美術教育の充実発展に貢献し，顕著な成績をあげた図工・美術教育関係者に対して，感謝状並びに記念品を贈呈し，その功績をたたえることとする。

2　表彰の方法

（1）　被表彰者は，図工・美術部会及び合同本部事務局から推薦された者について理事会が審査し，その結果に基づいて，小学校図工部会長及び中学校美術部会長が連盟で表彰するものとする。

（2）　表彰は原則として，年度毎に開催される岩手県造形教育研究大会において行うものとする。ただし，被表彰者が死亡または転出等の場合はこの限りではない。

3　推薦及び審査の基準

県内の図工・美術教育関係者で原則として次に掲げる項目のいずれかに該当する者であること。

（1）　永年にわたり県内に図工・美術教育の充実発展につとめ功績顕著な者で，おおむね60歳以上であること。

（2）　全国造形教育研究大会，東北造形教育研究大会並びに岩手県造形教育研究大会等，各種研究会にあたり，とくに指導的役割を果たし功績顕著な者であること。

（3）　県内の図工・美術教育の推進並びに研究拡充のため特に指導的役割を果たし，功績顕著な者であること。

4　表彰の記録

被表彰者の名簿及び表彰内容は，合同本部事務局において，永久保存しておくものとする。

5　その他

その他詳細については理事会で決める。

［付記］

この要項は昭和55年4月1日から施行する。

藤原賞について

藤原賞運営委員会

藤原賞は，昭和45年岩手大学名誉教授藤原徳太郎先生（元岩手美術教育振興会長・平成3年9月ご逝去）からのご寄付による基金をもとに，先生の意向を体して，岩手の優れた美術創作活動及び造形教育実践・研究を表彰することによって斯道の発展・振興に資することを目的として，岩手県美術振興会により設置されたものである。

昭和48年に，現在の岩手県小学校教育研究会図画工作部会，同中学校教育研究会美術部会がこの事業を引き継ぎ継ぎ，二つの部会が合同で設けた藤原賞運営委員会がその運営にあたっている。

昭和52年には基金の将来的見通しに立って，この賞の意義を認め，先生の志を生かし賞の永続的発展を願う県内外の有志による拠出金によって，基金の増額が行われた。

また昭和55年7月には，藤原徳太郎先生がご自身の10年間にわたる作品の個展開催の終了を機に多額の基金をご寄付いただき，平成3年11月には，藤原徳太郎先生のご長男，藤原哲郎氏よりご香典の一部を藤原賞基金にご寄付いただいた。さらに平成，10年4月7日，安藤正先生（元盛岡市立河北小学校長）ご逝去により，ご遺族から平成10年6月11日，藤原賞への基金としてご寄付いただいている。

平成11年に藤原先生のご遺族から4度目のご寄付をいただき，現在に至る。

発足から50年以上が経過し，岩手の造形教育の深化・発展のために実り多い実績や記録を顕彰し，日常の指導実践の大きな励みとなる賞として，日々成長・発展している。

大 会 組 織

◆大 会 役 員

大会会長	紫波町立紫波第三中学校	校長	佐藤智一	東北造形教育連盟会長・岩手県中学校教育研究会美術部会会長			
実行委員長	盛岡市立高松小学校	校長	佐藤あい子	岩手県小学校教育研究会図画工作部会会長			
副委員長	認定こども園つつみ幼稚園	園長	高橋繁雄				
	盛岡市立見前小学校	校長	鈴木敏彦		久慈市立侍浜中学校	校長	天間保幸

◆総 務 部

総務部長	盛岡市立米内中学校	副校長	山本勝彦				
副部長	奥州市立常盤小学校	校長	加藤 均				
部員	一戸町立一戸南小学校	校長	吉田 武雄	編集部	盛岡市立高松小学校	副校長	城内達夫 事業部
	宮古市立宮古小学校	校長	佐藤和男	編集部	陸前高田市立広田小学校	副校長	新沼 健 事業部
	宮古市立鍬ケ崎小学校	校長	小田島 圭	研究部	盛岡市立月が丘小学校	副校長	大場江利子 事務局
	宮古市立崎山中学校	副校長	高橋知志	事業部	岩泉町立小川小学校	副校長	小原 賢 部業部

◆事 務 部

事務局長	盛岡市立北陵中学校	教諭	上野行知				
次長	岩手大学教育学部附属小学校	教諭	金子裕輔				
局員	盛岡市立月が丘小学校	副校長	大場江利子		盛岡市立黒石野中学校	教諭	路奥千尋
	岩手大学教育学部附属小学校	教諭	上田佳穂		盛岡市立仁王小学校	教諭	山本のり子

◆研究・編集部

研究部長	沼宮内町立沼宮内中学校	指導教諭	田村敏之				
編集部長	盛岡市立河南中学校	教諭	高橋佳代				
副部長	盛岡市立緑が丘小学校	教諭	名飯亮子	研究部	認定こども園つつみ幼稚園	教諭	雨宮美夜子 研究部
	盛岡市立松園小学校	教諭	阿部ゆか	編集部	盛岡市立下橋中学校	指導教諭	佐々木俊江 研究部
部員	盛岡市立仁王小学校	教諭	山本のり子		盛岡市立黒石野中学校	教諭	路奥千尋
	岩手大学教育学部附属小学校	教諭	上田佳穂		盛岡市立仙北中学校	教諭	千葉綾子
	盛岡市立上田小学校	教諭	岩部みな		盛岡市立上田中学校	教諭	小山祐太
	宮古市立千徳小学校	教諭	今野瑶子		盛岡市立見前南中学校	教諭	北條優美子
	奥州市立水沢南小学校	教諭	佐藤史織		盛岡市立城西中学校	教諭	佐藤 陽
	滝沢市立鵜飼小学校	教諭	赤澤恵美		滝沢市立滝沢第二中学校	教諭	佃 里子
	盛岡市立巻堀小学校	教諭	岡山里沙		岩手大学教育学部附属中学校	教諭	佐々木倫生
	盛岡市立巻堀小学校	教諭	室井 博		大槌町立大槌学園	教諭	奥村理奈
	遠野市立鱒沢小学校副校長	副校長	小原由理子		盛岡市立厨川中学校	教諭	小原久美子
	二戸市立仁左平小学校	教諭	千田沙和里				
	盛岡市立上田小学校	教諭	山野目道子				
	盛岡市立見前小学校	教諭	平野有華				
	盛岡市立高松小学校	教諭	長山 茜				

◆事 業 部

事業部長	滝沢市立滝沢南中学校	教諭	山火大地				
副部長	盛岡市立上田小学校	教諭	渡辺江里		盛岡市立飯岡中学校	教諭	杉本 聡
部員	北上市立江釣子小学校	教諭	上野敏明		盛岡市立城東中学校	教諭	住吉オリエ
	盛岡市立北厨川小学校	教諭	秋山清美		盛岡市立大宮中学校	教諭	岩崎豊美
	盛岡市立中野小学校	教諭	後藤隆子		盛岡市立渋民中学校	教諭	山下摂子
	●市教研図画工作部会員				●市教研美術部会員		

協　　賛

祝
第６５回　東北造形教育研究大会岩手大会
第５５回　岩手県造形教育研究大会盛岡大会

よくわかる図画工作科
なっとく学習指導要領
授業への生かし方

☑ 新学習指導要領対応
☑ カラー刷りで全体像がつかみやすい
☑ 授業のイメージがわく豊富な展開例
☑ わかりやすいQ&A解説
☑ アクティブ・ラーニング対応

小林貴史・北澤俊之・小林恭代・大橋重剛　編著
B5 判／ 112 ページカラー＋１色 16 ページ
本体 2,530 円（税込）

KAIRYUDO
開隆堂出版株式会社
〒 113-8608　東京都文京区向丘 1-13-1　TEL 03-5684-6118 ／ FAX 03-5684-6155
東北支社　〒 983-0852　宮城県仙台市宮城野区榴岡 4-3-10　仙台 TB ビル４階　TEL 022-742-1213
http://www.kairyudo.co.jp/

祝 第65回東北造形教育研究大会岩手大会

これからの ICT 教育を見据えた、新しい鑑賞用ソフトが登場！！

発売中

デジタルアートカード

▼サムネイルから気になる作品を選択できる操作画面

▲作品の細部まで見える高精細画像

おもな特長
■サムネイルから作品が選べる作品選択画面
■歴史の授業でも使える！！豊富な収録作品
■じっくり鑑賞するための拡大・比較機能
■手持ち画像を追加登録するなどのカスタマイズが可能

※記載内容は、予告なく変更する場合があります。

■価格・仕様・動作環境などの詳細は、日文Webサイトにて公開中！

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版
https://www.nichibun-g.co.jp/

日本文教出版株式会社　お問い合わせは大阪本社業務部までお願い致します。
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井 1-2-16　TEL：03-3389-4611
大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉 4-7-5　TEL：06-6692-1261

よくのびる！　マシュマロみたいにやわらかい！

超軽量ねんど

めちゃのびねんど

特　長

よく伸び、やわらかく軽量にした紙ねんどです。

- ●ねんど同士のくっつきが良く、手には付きにくい
- ●絵の具の練りこみが可能
- ●ひび割れしにくく、芯材が使えます
- ●薄くしても乾燥すると丈夫な作品になります

＼めちゃのび～る！／

めちゃのびねんど L

231-395 100g・約350㎤

¥280（￥255）

●主成分：中空樹脂球体　●乾燥硬化
●芯材使用可　●紙粘土のなかま

新日本造形株式会社
http://www.snz-k.com

東京本社　〒111-0052　東京都台東区柳橋2-20-16
TEL：03-3866-8100　FAX：03-3866-8130

大阪支社　〒537-0003　大阪府大阪市東成区神路1-10-6
TEL：06-6974-5111　FAX：06-6974-2800

BSS デジタルカタログはじまりました

https://catalog.bijutsu.biz/

お手持ちのタブレットやスマートフォン、
PC で使えるデジタルカタログ！
作品例や技法の動画も随時更新中！

商品名や商品コードを検索する
だけで、欲しい商品がすぐに見られる！
紙のカタログが手元になくても
PC・タブレット・スマートフォンで見られて便利！

＼QRコードからも
アクセスできます／

美術出版エデュケーショナル
〒178-0065 東京都練馬区西大泉5-29-15
電話：03-5947-6101 FAX：03-3867-3071

祝　第 65 回東北造形教育研究大会

光村図書ウェブコンテンツのご案内

ART BY STUDENTS

生徒作品
ギャラリー

生徒はみんなアーティスト

全国の中学校・高等学校の生徒作品を紹介しています。
授業づくりの参考に，ぜひご覧ください。

https://www.mitsumura-tosho.co.jp/
kyokasho/k_bijutsu/artby/index.html

光村図書

光村図書出版株式会社
東京都品川区上大崎 2-19-9
tel 03-3493-2111(代表) / Fax 03-3493-2174
www.mitsumura-tosho.co.jp

祝　第 65 回東北造形教育研究大会
第 55 回岩手県造形教育研究大会盛岡大会

「四季とともにみんなが集う “未来への”交流フィールド」

展示会場に
ふれあいギャラリー(70 坪)

講演会・合唱祭などに
多目的ホール(最大 320 席)

岩手教育会館　TEL：019-623-3301

盛岡都心循環バス「でんでんむし『盛岡城跡公園』」下車
〒020-0022　盛岡市大通１－１－１６　FAX：019-623-3349
URL　http://www.i-kaikan.jp

祝 第65回 東北造形教育研究大会
第55回 岩手県造形教育研究大会

新しい創造への アドバイザー として
"心に残る旅"をお手伝い致します

For your nice day & nice trip !!
JR券から海外旅行まで…旅のことなら 何でもご相談下さい

おかげさまで創業50余年!! 日本の旅 世界の旅!!

東杜観光株式会社

旅行業・損害保険代理店業 広告・宣伝・看板事業
〒020-0062 岩手県盛岡市長田町3番18号 東杜観光ビル1－3F
TEL (019)651-3737㈹ FAX (019)651-3711
E-mail toto@f4.dion.ne.jp

ターナー・ポスターカラー
アクリルガッシュ
サクラクレパス ぺんてる
画材用品特約店

各種美術・図工教材取扱店

SASACHO
株式会社 佐々長商店

岩手県盛岡市仙北1丁目14番12号
電話：019-636-0927 FAX：019-634-0247

色で育てると考える

日本色研事業株式会社

日本色研 検索

本　　社 〒102-0083 東京都 千代田 区麹町 4-7-5
大 阪 支 社 〒541-0055 大阪市 中央区 船場中央 2-1-4-305
東京営業所 〒175-0082 東京都 板橋区 前野町 4-63-5
九州営業所 〒810-0012 福岡市 中央区 白金 2-11-14

Discover the best
Pentel

共同制作用画材

品名	耐水性	描画材料									
		画用紙	ペットボトル	ガラス	牛乳パック	ビニール袋	発泡スチロール	木材	石	缶	布
共同制作えのぐ	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
スクールガッシュ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ポスターカラー(クラス用)	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×

ぺんてる株式会社
〒103-8538
東京都中央区日本橋小網町 7-2

祝 東北造形教育研究大会
岩手県造形教育研究大会盛岡大会

授業を彩る商品、お届けします。

有限会社佐々木教材社
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ 2-23-12　TEL 019-641-4111

クラフテリオ Kクレイ

テリオ君

約115g

約140g

約190g

保存袋付!

きめ細かくて
よく伸びる粘土なので、
低学年でも簡単に
色粘土が作れます。

WEB講習会、
WEB授業も
実施中!!

簡単にのびるよ!

サイズ	教材番号	学納価	大きさ／重さ
M	31-556	¥240	約130×100×22(mm)／約115g
L	31-557	¥290	約160×100×22(mm)／約140g
LL	31-558	¥390	約210×100×22(mm)／約190g

※パッケージのデザインは変更する場合があります。予めご了承ください。
※保存袋サイズ(M、L):220×140(mm) (LL):258×170(mm)

お気軽に
お問い合わせください!

子どもたちの喜ぶ顔が見たくて…
株式会社サンワ
クラフテリオ事業部
https://www.crafteriaux.co.jp

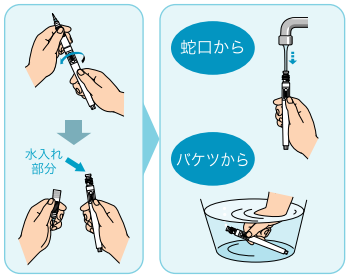
Kuretake
アート&クラフト カンパニー

毛筆でまさに筆のような弾力があり、
穂先が尖っているため、
「とめ」「はね」「はらい」が練習できます。

水書筆ぺん（すいしょふでぺん）

詳しくはこちら▶

水が入れやすい



バリエーション豊かな穂先

水書用紙を使えば水で繰り返し練習できます

水書用紙に
水書筆ぺんで書きます。

書いた部分の
色が変わります。

乾くと消えるので
繰り返し練習できます。

水書の授業終了後は画筆としても使えます

※画像はイメージです。

株式会社 呉竹
〒630-8670 奈良市南京終町7-576
TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070
URL:www.kuretake.co.jp

令和もよろしくお願いいたします。

美術工芸センター総合カタログ

ザ・教材

切り絵・はり絵・ちぎり絵・張り子
スクラッチボード・ドライポイント
螺鈿工芸・てん刻・京粘土・七宝焼

ホームページ「てづくり横丁！」QR コード →
カタログ全ページ掲載しております。

絵画・画材・デザイン・工芸・民芸・版画・染色
木彫・木工芸・てん刻・彫塑・彫刻・陶芸
ガラス工芸・金属工芸・皮革工芸・七宝焼
共同製作・記念品・鑑賞視聴・参考資料・備品・設備品

私達は、豊かな人間性を育てるための、
新しい教材の開発に日々取り組んでおります。

（株）美術工芸センター　東京都板橋区徳丸 7-7-10　TEL 03-3935-8833　FAX 03-3935-8889　Email bk@bijutukogei.co.jp

© Let It Be　　小林 覚 ／ Let It Be

暮らし開拓 川徳2021

盛岡市を拠点にする株式会社ヘラルボニーは、「異彩を、放て。」をミッションに掲げ、福祉を起点に新たな文化づくりを目指す社会実験ユニットです。川徳はこのヘラルボニーの活動を応援しています。

KAWATOKU 川徳 盛岡市菜園1丁目10番1号 電話(019)651-1111(代表)
ホームページをご覧ください
kawatoku.com

文字を大切にする

セーコー印刷

盛岡市下の橋町2－23　☎ 651－３６０６
FAX 651－３６２９

くまがい
ぶんぼうぐや

営業時間
平日 9:00～19:00
土日・祝 9:00～18:30

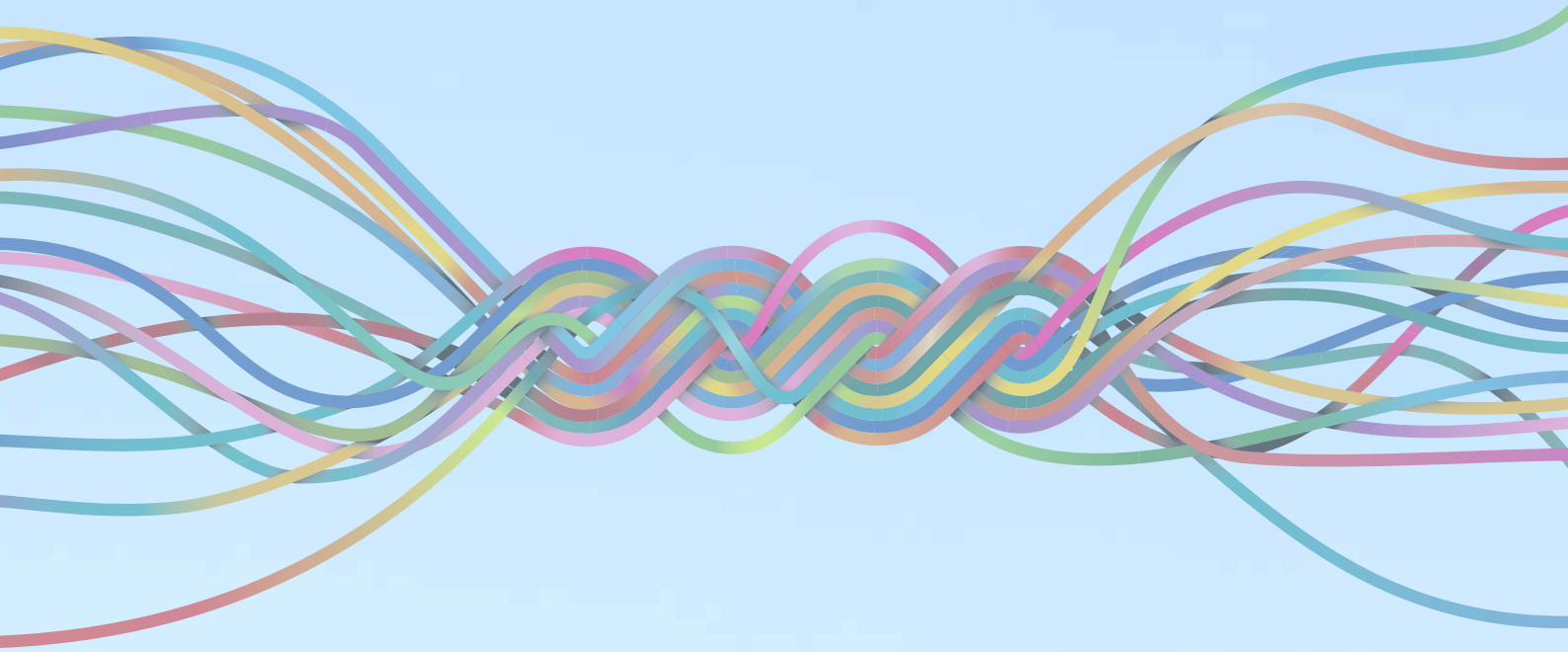
TEL 019-662-8281
FAX 019-662-8890

〒020-0011
岩手県盛岡市三ツ割５丁目17-3

〒020-0004
岩手県盛岡市山岸２丁目 2-20
(有)澤里教材盛岡支店
TEL 019(658)8336
FAX 019(623)7501

第６５回 東北造形教育研究大会 岩手大会
２０２１年度 岩手県造形教育研究大会 盛岡大会

発 行 日　2021年10月22日
発 行 者　東北造形教育研究大会岩手大会　兼
岩手県造形教育研究大会実行委員会
印　　刷　セーコー印刷
盛岡市下の橋町2−23
☎019−651−3606



◆ 主催　東北造形教育連盟
岩手県小学校教育研究会図画工作部会　岩手県中学校教育研究会美術部会

◆ 後援　岩手県教育委員会　宮城・福島・山形・秋田・青森各県教育委員会　盛岡市教育委員会
岩手県小学校長会　岩手県中学校長会　盛岡市小学校長会　盛岡市中学校長会
岩手県社会福祉協議会保育協議会　日本教育会岩手支部　一般財団法人岩手県教育振興基金
公益財団法人日本教育公務員弘済会岩手支部
岩手県公立幼稚園協議会　一般社団法人岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会